

あなたの意識ではありませんか、

参考にしてください

第四卷

二六九、 ****さん、あなたの心を語ってみてください。

****です。自分の中に、たくさんの自分があることを、私も知りたい、どんな自分が出てくるのだろうか、そんな思いが出てきます。

知りたい、知りたいという欲の思いばかりが出てきます。

私の今までこの、****という時間の中で、何を思ってきたのだろうか、何を本当に私は思い、生活をしてきたのだろうか。私は自分の心を語りなさいと言われたときに、そのことをまだしっかりと振り返っていないことを感じます。本当に心を語りなさいと言われて、語るものではないんですね。自分の心を見ることをしてこなかった私にとって、何を語ればいいのか分からないです。

嬉しいことや、悲しいことや、そういうことをどれだけ語っても、自分の心を語るということにはならない。私は、その勉強をしていかなければならないと、今、思っています。

****さん、本をしつかりと読んでください。そして、あなたもお母さんの反省を始めてください。それしかないんです。そういうことをしなければ、あなたは、これまでの時間と同じような時間を、これからも過ごしていくようになるでしょう。それであなたが、幸せや喜

びを感じていけるなら、それもよしです。

でも、私は、あなたは、いずれ、どこかで、自分に気付きと促しを用意している、そのことを感じます。それはあなた自身が、これからの時間を経て、自分で知っていくことだと思います。そのために、あなたは、これから本を読み、お母さんの反省をして、しっかりと準備を整えていってください。

二七〇、****さん、あなたの思いを聞かせてください。

私は、****です。自分の心が苦しい、なぜこんなに苦しいのか、私は、日々の時間を過ごしている中で、それを感じています。

苦しいけれども、それが自分の心癖であるとか、自分にすべての原因があるとか、そういうことは、まだ、分かりません。分からないというよりも、認められない。やはり、私は、相手が悪い、私は正しい、私にも悪いところがあるかもしれないけれど、それ以上に相手が悪い、私は、そのように、相手を責め裁いて、自分を正当化していると思います。それが苦しい、私が間違っている、そこにまだ私の心は、至っていません。

****さん、どうぞ、あなたもお母さんに使ってきた心を、しっかりと見ていってください。肉のお母さんに使ってきた心を、まず思い出し、書き出してみる。そうすることをやっていってください。

あなたの心は、肉のお母さんに向けているけれども、あなたの心の中にあるのは、そのお母さんではない。そういうことを、あなたは感じていくと思います。

それは、あなたの勉強です。あなたもそれをどんどんやっていってください。

二七一、****さん、あなたの中のエネルギー、つまり、あなた自身を感じてこられて、今のあなたの思いを、語ってみてください。

****でございます。はい、すごいエネルギーを蓄えてきた私自身を感じさせていたただいて、私は、とても嬉しいです。苦しい思いも、どんどん出てきますが、私の中が、本当に狂っていることを感じさせていただいて、とても嬉しいです。今世、私が肉体を持ってこなかったならば、そして、この学びに繋がらなかったならば、私は、まだまだずっと、ずっと、地獄

の奥底で苦しみ喘いでいた。そんなことを感じるにつけ、今、私は、本当にすごいチャンスを、自分に用意してきたことを感じ、ただただ嬉しく思います。

幸せを願い、喜びを求め、どれだけ転生を繰り返してきたことか。そのたびに、他力のエネルギーを自分の中に蓄え続けてきました。

本当に間違ってきた道を歩き続けてきた私にとって、お母さん、あなたは、私の救いでした。私に肉体を与えてくれたことが、とても今、嬉しいです。

***さん、田池留吉に心に向けてみてください。

田池留吉、心から田池留吉を思えるように、はい、私は、もっと自分を見つめてまいります。他力の神々に向けてきた心を、見つめてまいります。

田池留吉、その優しい目、厳しいけれど優しい目に、私は、もっと応えていきたい。今、そのように思っています。お母さん、ありがとうございます。

二七二、***さん、心を聞かせてください。

私は、***です。己偉い心で、私は、ずっと家族を牛耳ってきたことを、申し訳なく思っています。それでも私は、今ここに、恵まれた状況にあります。とても優しい中に、私は、存在していたことを感じます。

私だけがそびえ立ち、私だけが冷たい波動を流していた。そのことを感じさせていただと思います。心が、私の心が、少しずつですが、変っていくと、私の中にも、ふっとした優しさや、喜びが感じられるようになってきました。今、とても嬉しいです。本当にありがとうございます。

***さん、お母さんに心を向けてみてください。

異語。

***を生んでくださってありがとうございます。お母さん、ありがとう。

心の中に、色々な思いを抱えてきたことを、あなたの肉を通して、私は感じさせていただきました。これがすべて私でございました。お母さんの肉や、周りの人を通して、心に響いてきた思いを私は振り返り、これからも振り返り、そして、私を見つめてまいります。お母さん、

生んでくれてありがとう。私は、これからも、何度か肉体をいただくと思っています。この思いを、きつと繋いでまいります。肉をいただくことが嬉しい、そんな私を繋いでいきたい。今、そう思っています。

二七三、***さん、どうぞ、心を語ってみてください。

私は、***です。冷たい、冷たい心そのままできた、頑なに心を閉ざしてきた私の中に、少しずつですが、安らぎというか嬉しさというか、そういうものを、ふつふつと感じます。

本当にすさまじいエネルギーを蓄えてきました。妻の言動は、私の心に鋭く突き刺さります。妻の波動が厳しいというわけではありません。私の心の中の冷たさ、すごさに、それが突き刺さるといふ感じがするのは、私自身がそうだからです。今、私は、そのような環境の中で、自分を見させていただいています。心が様々に動くけれども、今、私は、その中で、心を見させていただいている。私が望んできたことでございました。

こうやって、私は、自分の心を見てまいります。お母さんに使ってきた心は、ああとても、とても、冷たくて、母を見下してきました。

母が私を受け入れなかったのではありませんでした。私が母を拒絶してきた。母を受け入れなかったのは、私でした。冷たい心でございました。

異語。

****さん、どうぞ、どうぞ、お母さんに向けて瞑想をする時間を持つてください。瞑想をしつかりとしていってください。お母さんのほうに心を向け、あなたの中をもっと、もっと、解放していってください。まだまだ閉ざしていると思います。その閉ざした心に、あなたの奥さんは、何らかの刺激を与えてくれると思います。どうぞ、喜んでそれを受けていってください。そして、何のために、今があるのか、もう少し、自分の心で、深く感じられるあなたになっ
ていってください。それには、瞑想をすること、瞑想をする時間を持つこと、闇雲に瞑想をしても、何もなりません、日々の時間の中で、心を見ながら、そして、静かな時間を、また自分自身持つていってください。

二七四、****さん、どうでしょう、パワーを求めてきた心を反省されましたでしょうか。

****です。はい、心の中にパワーを求める思いが、これほど強かったとは、私自身、本当に知りませんでした。パワーを求める思いが、とても強いことを感じています。なぜ、これだけ強い思いで求めてきたのか、私の中は、それほど苦しかったのですね。苦しいから、その苦しさをどうにかしたいから、パワーを求めてきた。そのパワーで私の心をどうにかできると、私自身、思ってきました。その私の心の中を感じると、とてもいたたまれない思いです。こんなにも苦しかったのか、本当に苦しかったんだなあ、今、そのように思っています。

この思いを、私は、しっかりと見ることなく、ただ偽物のパワーで何とかしようとしてきた浅はかさを、今、感じ、申し訳なく思っています。

****さん、どうぞ、心を田池留吉に向けてみてください。

田池留吉、心の中に温もりがあったのに、私は、それを忘れ去ってきました。お母さん、申し訳ございません。私が私を苦しみの底に突き落としていたことを、今世、感じさせていただいています。これが過去からの私でございました。苦しみの底に落ちていったのは、私自身でした。

お母さん、あなたではありませんでした。あなたは、そんな私に肉体をくれました。足蹴にしてきた思いを、今、少しずつまた見てまいります。お母さん、待っていてください。申し訳ございません。申し訳ございません。

二七五、****さん、他力の思いとは、どのような思いか、あなたには分かりますでしょうか。

私は、****でございます。他力の思いですか。いいえ、私は、まだ自分の使ってきた心をしつかりと見ていません。お母さんに対する思いもしつかりと見ていない。

他力の思いとはどういう思いなのかと、私に訊ねられますか。

他力とは何だろうか。他人に継る思いですか。何かに頼るとか、何かを求めるとか、自分以外の何かにそういう思いを求めていく、そういうことかなあと、今、思っています。

****さん、他力の思い、そうあなたの中にはその思いが、ぎっしりと詰まっています。あなたが自分をどのようにとらえているか。目に見えている、あなたの目の前に広がっている世界をどのようにとらえているか。その思いを、お母さんの反省をしながら、自分の中で確認

していつてください。

あなたは他人に頼るとか、何かを求めるとか、自分以外の何かを頼るとか、そういうふう
に答えたけれども、そうです、心を外に向けること、それが他力に繋がることでございます。

幸せにしてくれとか、幸せになりたいとか、喜びや嬉しさを、何かに求めるとか、そうい
うふうな思いを見ていつてください。その思いの底は、どんな思いでしょうか。人を求め、物
を求めるその思いの底にある思いはどのような思いでしょうか。なぜそういうものがなければ、
幸せを感じられないのか、喜びを感じられないのか。そういうところから、あなたご自身の心
を見ていつてください。自分の心を見る、自分の出している思いを見つめる、そういうことを
していかなければ、この学びについては、何も理解できません。ここは、あなたの運勢を占う
ところでもないし、あなたの生きていく方向を教えるところでもございません。ただあなたは、
あなたの心を見て、あなたの中にすべてがあつたことを心で感じる、そういうところござい
ます。

二七六、***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、***です。どうしても自分を認めてほしい、自分を認めてください、私を認める、田池、私を認める、お母さん、私を認める、お母さんなんて…、私は、そういう思いを、広げていってしまいます。

苦しいことだつて分かります。それがどれだけのすさまじいエネルギーかということは、私にも感じられますが、この心がどんどん次から次へと出てくるのです。

素晴らしい自分、そう、私も素晴らしい自分になりたかったです。

意識の世界をもっと自分の中で広げていきたい。反省をして、瞑想をして、そして、どんな心が進化されていって、私は、意識の世界の奥深くを進んで行きたい。すべてそんな思いの中でやってきたように、私は思います。

***さん、どうぞ、そんなに道を急がなくてください。あなたは、まだまだこれから自分の肉の時間の中で、色々な体験をしていかなければなりません。人と人の中で、あなたご自身が自分の心を見るようになっていきます。ただ反省をして、瞑想をして、それで意識の世界の奥深くが分かる、アルバートが分かる、宇宙が分かる、そういうものではありません。私からすれば、あなたの学びのしていく方向が、やはり、ズレているような気がします。あなた自身は、自分の苦しい心を吐き出し、そして、それを自分で包んでいくんだ、そういうふうに

理解されていると思っておりますが、そのあなた自身というのは、いったい何でしょうか。

そんなに急がなくてもいいんです。もっと、ゆったりと、自分を見つめていってください。

色々と思いが上がってくると思います。思いが上がってくれば、それをどんどん吐き出せばいいけれど、まずは、しつかりと母の反省をしていってください。己の偉い心では、自分の苦しい思いを受け入れて包んでいくことはできません。ということをお分かっていくために、これからの時間があると思います。つまり、己が偉いということに、これからあなた自身、実践を通して知っていくのだと思います。

そうした時に、あなたのこれまでの勉強が功を奏していく。そのような道筋を歩いていかれるのではないでしょうか。

二七七、 ****さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、****でございます。恵まれた環境の中で、私は、心を見る難しさを感じています。どうしても肉に流れていってしまいます。私の心の中の苦しさは、まだまだしつかりとあります。それを私は、肉に流されて肉にかまけて、そして、あたかも自分の中が少しずつ変わって

いつているような錯覚に陥っています。ああでもそうではありません。私の中は、一番よく知っています。肉の私が私を知らないだけです。

私の中は、苦しい、苦しいって叫んでいます。寂しい、寂しいって叫んでいます。どんなに恵まれた環境であっても、自分を知らずに生きていくことは、寂しいだろう、苦しいだろう。そういうふうに関に訴えている私自身を今、感じさせていただいています。

***さん、どうぞ、あなたの今の環境を、もう少し自分の心を見る方向に、うまく活用してってください。

確かにあなたは、恵まれていると思います。学びをするには、絶好の環境なのです。あなたの周りには、学んでいる人達がたくさんいるからです。当然、その人達は、自分の心を見ようとしています。色々なことがあっても、それぞれが自分の心を見ながら、日々の生活をしていつているわけですから、一見、穏やかな雰囲気は漂っています。

しかし、そこに埋もれて、自分の心を見ることをしない。もったいないと思います。

あなたの中は、ほとんど変わっていないと思います。すさまじいエネルギーを蓄えてきたあなたの中を、もう少し自分で掘り下げて見てください。

お母さんの反省をしていつてください。瞑想をする中で、お母さんに思いを向ける。そう

いうことをやっていってください。

***さん、心を田池留吉に向けてみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉、私は私の思い通りになっていることに、いい気になってきました。自分の中を、私は、しっかりと見ずにやってきたことを感じています。申し訳ありません。私は、肉の私のために生まれてきたものではありません。私は、私を知る。私は、私の中をしっかりと見ていくために、肉体をいただき、環境を用意してきた。そのことを、私は、やはり、肉に流されて、その思いの底をしっかりと見ていませんでした。

田池留吉に歯向かう心も、まだまだしっかりと残っています。

穏やかな日々を過ごしているわけではございません。心の中で葛藤が続いています。その葛藤を、私は、私自身の中で見てまいります。

二七八、 ****さん、苦しいあなたを、どんどん見ていってください。

私は、****でございます。私のエネルギーはすさまじいです。でも私は、そのエネルギーをまだまだ少ししか見ていません。自分のエネルギーを押し込むエネルギーのほうが強いと思います。心を押し隠してきました。心を押し殺してきました。自分を殺してきました。そんな私を感じ、今、とても、辛いというか、悲しいというか、そういうふうな思いを感じています。苦しい私を見捨て、見限つてきた私は、今世、生まれてきて、その私の思いと出会うために、今、ここにあることを感じています。感じているけれども、私の中は…。

私は強情だと思えます。私の中は、そういう思いでいっぱいなのに、私は、まだこの肉をしつかりと携えています。

****さん、あなたは、ご主人に対して、どのような心を使ってこられましたか。

異語。

主人は、表向きには立派な人として通ってきました。でも家の中では…、本当に私達に対

して、ワンマンというか、私達は、苦しい思いを広げてきました。

ああでも、それは私自身、自分を知らなかったからです。主人のエネルギーはすごい、私は、ずっとそのように思ってきました。でも、それは、私自身だったのです。私は、それをなかなか認めることができなかつたし、今もまだまだ認めることができかねますが、確かに私です。

主人に従うことしか私はできなかつたです。心の中では色々な思いを抱えてきたけれど、一応、形は主人に従っていくことしか、私はできなかつたその苦しさを、私は、どうしても表に出すことができません。

主人には主人の考えや思いがある。だけど私にだって私の考えや思いがある。それを私は、しつかりとはつきりと出してこなかつた。それなのに、私は、ぐずぐずぐずぐず、下らない思いを抱え持っていたのだなあと、今思います。主人に私をもっとぶつけていけばよかつた。思いは流れているのだから、もっと素直にぶつけていけばよかつた。今、そのように思います。

異語。

***さん、あなたが自分の思いを語るとき、私に響いてくるのは、自分を自分で抑え、というか、抑圧する波動です。自分を自分で押さえているエネルギーを感じます。だから、

あなたは、まだまだ自分を語っていないというか、語れないというか、そんな思いを感じます。なぜなのでしょう。もつと素直に、そして気楽に自分の思いを出してみる。そういうふうに心がけて、瞑想をしていってください。

あなたも異語で語っていますか。自分と自分の中で、異語で語っていますか。何かあなたの中が詰まっているような気がしてなりません。

異語で、どんどん自分の思いを出してみてください。心の蓋を開けるのは自分自身、そのことをあなたにも、私はお伝えしたいと思います。

二七九、***さん、***さん、どうぞ、田池留吉に心に向けてみてください。

異語。

田池留吉、私達夫婦は、ともに間違った道を歩いてきました。互いにすさまじいエネルギーをぶつけ合いました。互いに責め裁き、そして、己一番の思いをぶつけ合ってきました。もう私達は、もうこれでいいです。自分達のエネルギーを心で知って、私達はそのエネルギーを

自分の中で、優しく、優しく、見つめてまいります。

間違ってきた人生を歩いてきたけれども、人生の終わりに、このような嬉しい、幸せなひと時を用意している私達夫婦でございます。

まだまだ至りません。心を田池留吉にしっかりと合わせることができていないと思います。でもこのように語らせていただいています。

これが何よりの私達の幸せでございます。心を語れることが私達の幸せでございます。どれだけの苦しい中を生き続けてきたか。そんな中で、私達は肉を持ち、夫婦となり、互いに互いのエネルギーを感じ合い、今、このように心を語り合っている。こんなに嬉しいことはありません。申し訳ありませんでした。心を見てまいります。

異語。

*****さん、*****さん、どうぞ、心を繋いでいってください。転生を経て、どうぞ、二五〇年後に繋いでいってください。そして、私達とともに喜びを味わってまいります。心の中にアルバート、しっかりとアルバートと呼べるあなた方を、私達は待っています。二五〇年後を待っています。

二八〇、***さん、今、あなたは、この学びについて、どのように思っておられますか。

私は、***と言います。まだ私にはよく分からないけれど、でも、私が何か探してき
たような、そんな私に出会えるというか、そんな私を思い出すというか、そういう学びだと私
は感じています。

喜びや幸せを求めて生きてきた心に、それが根本的な間違いだったということ、自分に
伝えていくには、まだまだ時間が必要だと思えます。でも、私は、自分なりに焦らずに、やっ
ていこうと思えます。

心を語る私、今、心を語る私があります。その私の思いをもっと自分で聞いてあげたい。そ
のように、今感じます。

自分を見つめるということが、どれだけの優しさなのか。私は自分で知っていくと思えます。

異語。

****さん、日常の生活を通して、この学びをしていくということは、難しいかもしれませんが。でも、あなたの心の中に響いてきている思いを、あなたはただただ、それを信じていてください。

情報は色々入ると思います。人は色々言ってくると思います。またあなた自身も、まだまだ自分の心を見ていないから、そういうことに迷うというか、そういう方向に心を向けていくかもしれません。

でも今、あなたはあなたの心を語ったその思いを信じてみてください。私はあなたに、はっきりと言います。あなたの中に、本当のことを自分達に伝えてくれ、苦しかった自分達に伝えてくれ、そのような思いが、あなたにも、たくさん、たくさんあることを、あなたに伝えたいと思います。

どうぞ、それをあなた自身が、自分の心で感じてみてください。そういう学び方をしていてください。

二八一、****さん、心を語ってみてください。

****でございます。私は、己が一番だということを、自分でしつかりと感じていません。たぶん自分の意識を語るとき、己一番、我一番、そびえ立っている。そういうことが出てくるだろうと、予想していました。

ですが、私自身、これほどそびえ立っているということは、自覚していませんでした。私から出る言葉、ほとんど己を表している、私が一番、そういう思いから、言葉を発してきたことも、私は、ずっと分かりませんでした。

心を見てきたつもりです。お母さんの反省をしてきたつもりです。他力の反省をしてきたつもりです。ああ、私は、全部つもりです。

そう、私も、つもりの中で、自分に納得してきました。ですが、今、自分を自分で語るとき、私はこの学びとズレがあるというか、距離があるというか、そういうことを感じざるを得ません。

異語。

****さん、今、あなたは、自分の心を語られました。あなたはこれを見て、どのような思いが出てくるでしょうか。そこから始めてください。私は、あなたが今、正直に語られたと思っています。学びの本質と大きく距離が開いているような感じがします。

***さん、心を田池留吉に向けてみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉、そびえ立っている自分を感じます。田池留吉、私は、己のすごさをまだ心でしっかりと感じていません。これほどそびえ立っている自分であるのか、私は、自分の中ではつきりと感じる事ができませんでした。今は、この肉体も年老いています。でも私の中にすさまじいエネルギーを感じます。この学びは、ある程度の体力と気力が必要だと伝えられてきましたが、その通りだと思いません。

心の中に蓄えてきたエネルギーはすごいのに、私は、それを今、ただじっと見つめているだけでございます。それをどうすることもできません。私は、このすさまじいエネルギーを抱え持って、また転生をしていくのだと思います。苦しい私を、十分に解き放つことができなかった今世ですが、今、田池留吉に心を向けさせていたでいて、苦しいながらも、やはりありがとうございます。ありがとうございましたという思いが出てきます。己に溺れてまいりました。申し訳ございません。

二八二、***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は***です。美しくあらねばならない。私は、そうやって自分を小さな中に閉じ込めてきました。苦しい心も、心の奥底に押さえ込んだまま、詰め込んだまま、私は、今までやってきました。その私の思いが、今私の肉体を通して、この身体に出てきます。

苦しい、押さえ込んできた私を出してくれ、そんな思いとともに、私はずっとこの人生を生きてきたような気がします。

表面を取り繕って、私も仮面を何重にもかぶって、その中で、じっと私は生きてきたように思います。

異語。

***さん、あなたの心の心の寂しさは、半端なものではありません。

その寂しさゆえに、色々な心を使ってこられました。

そして、あなたの今はどうでしょうか。まだまだあなた自身に色々な悩みや苦しみがある

のではないのでしょうか。

あなたの中の暗い、暗い、真つ黒な心の世界、それは、あなた自身が自分で知っていていかなければなりません。あなたの寂しい心や苦しい心、そういう思いを、どれだけ周りの人に訴えても、肉のあなたはそれでいいかもしれませんが、根本的な解決には全くなっていない。このことを、あなたはお分かりでしょうか。

あなたの年齢からすれば、本を読むことも難しいかもしれませんが。肉体的に大変かもしれませんが。でも、それならば、あなたの耳を通して、田池先生が何を伝えようとなさってきたのか、そのことを耳から入れていってください。あなたが、本当に自分を救いたい、苦しい自分から喜びの自分へと変っていかうと思うならば、あなたができることから始めてください。

体力も気力も衰えていると思いますが、それでも、まだあなたに、時間が、肉の時間が残されている限り、あなたは、あなたのできることをしていく。それが、あなたに対する、自分に対する誠実さだと、私は思います。

二八三、***さん、あなたはご自分の波動を心で感じてこられましたでしょうか。

****です。はい、私も、自分のエネルギーを自分の心で感じることをしてきたつもりです。己偉い心、自分を誇る思い、そして、周りを見下す思い、周りを見下しながら導いていこうとする思い、すべて教祖の思い、その波動を感じてきたつもりです。ああでもまだまだです。私の中には、まだまだまだその思いが詰まっています。この肉の時間をすべて費やしても、私の中には、まだまだという感じがします。それでも、私はやっていきます。私も、お母さんに生んでいただいてありがとう、その思いを心に感じていきます。その思いだけを信じて、私もやっていきたいと思っています。

異語。

****さん、田池留吉に心に向けてみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉、ああお前を、私は見下してきた。どれだけの思いで、お前を見下してきたか…、そびえ立っている自分を心で感じていきます。申し訳ございません。こんな心です

っと、ずっと、自分を誇ってきました。下らない私を誇ってきた。今、そのことを感じ、とても、とても、申し訳ないと思っっています。自分に対して申し訳ない、お母さんに申し訳ない思いでいっぱいでございます。お母さんの心を心で感じてまいります。

ああ、私は間違ってきました。田池留吉、どれだけ、どれだけ私は許されてきたことか。肉の時間をできる限り使って、私は、自分を見つめてまいります。お母さん、ごめんなさい、ありがとうございます。

二八四、***さん、瞑想を続けていますか。

はい、***でございます。心の中の間違いに気付き、私は、自分なりに瞑想を続けています。それでも、どんどんどんどん次から次へと、苦しさや間違った思いが出てきます。私の中に本当に喜びがあるのだろうか、そう思うくらいに、限りなく出てくるのは、闇ばかりでございます。

私は、私の瞑想は、やはりその向け先が違っているのかなあと思うほど、私の中は、まだまだ苦しさがいっぱいでございます。

異語。

***さん、闇は無尽蔵にあります。闇は次から次へと出てきます。でも、あなたの心の中にその闇を思う思いが以前とは変っておられるのではないのでしょうか。嫌って切り捨ててきた思いから、それを自分の中で見つめ受け入れていこうとする優しさへ、あなた自身も少し変わっておられるのではないのでしょうか。

しかし、あなたは自分の少しの変化を、喜べない心があるのです。

それは、なぜなのか。簡単です。あなたは、まだまだ己偉い自分があるからです。どんな小さな変化でも、喜んでいってください。

喜べない心が出てきたら、その思いも喜んでいってください。心の中の苦しさ、間違いは、どれだけの時間を経てきたか、あなたにもお分かりだと思えます。そんなあなたの中を、今世だけの僅かな時間でどうかしよう、どうかかできると思っているあなた自身、浅はかなのではないのでしょうか。どうぞ、あなたは、あなたを受け入れていける、そのことを喜んでいってください。

では、心とともに、田池留吉に向けてみましょう。

異語。

田池留吉、私は、***でございます。心の中に優しさ、温もりを感じられる私が、今ここに語っています。お母さん、ありがとうございます。心からありがとうございます。間違っていました。ひとつ、ひとつ、私は、その間違いをこれからもできる限り、見てまいります。どんどん私の中の苦しさを覚えてまいります。お母さん、ありがとうございます。

二八五、***さん、心を語ってみてください。

私は、***と言います。苦しい中を生きてきた私にとって、お母さんと思えることが嬉しいんだなあと、今思います。肉の私は、何も分かりません。でも、心を語りなさいという促しを受けて、私は、今そのように語らせていただきました。

お母さんを求めてきた私の中があった。今、そのことを感じます。

私も、自分の思いを語ってみたい、出してみたい。ずっと、ずっと存在してきた私自身を語ってみたい。そのように思います。

***さん、あなたにとって、この学び、セミナー会場で見て聞かれたこと、おそらくあなたの中に大きな衝撃を与えていったと思います。ただ肉のあなたが、まだまだしっかりとその前に立ち塞がっているわけですから、その中の衝撃は、なかなか肉にまで響いてこないかもしれません。

しかし、どうぞ、あなたの中が、今、素直に語られたようなことを感じていることを信じて、奥さんと子供さんといっしょに学びを続けていかれますか。

ぜひ、そのようになさったらいいと思います。自分の生きている意味、これから存在していく自分、そして、家族、周りの出来事、色々なことを、あなた自身、これをきっかけに考えてみてください。

二八六、***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、***です。己偉い心はもちろんのこと、素晴らしい自分を誇ってきた私でございます。どこにこの私を誇れるところがあるのか、私には不思議なくらいです。でも、私は、己を誇る思いがとて強いです。

ああそれと、お金、お金です。金、金の人生を今世も生きてきましたし、今も、まだまだお金に心が縛られています。

お金で苦労しました。お金に対する自分の心を見ていったとき、本当に自分の心の中の醜さがいやというほど、よく分かります。

どうして、私は、こんなに自分の中に醜いものを溜め込んでしまったのか。本当に自分ながら、何とも言えない思いでいます。

心の中の寂しさはお金では癒されない。どんなにしたって癒されない。そして、他力のエネルギー、他力のパワーでもどうすることもできなかつた。そんな私の過去からの思いを、しっかりと今世見るために、ここに、今、肉体を持っています。

これまでの人生は、そのエネルギーに振り回されてきました。振り回されるというよりも、私自身、そのエネルギーを膨らませてきたのですね。

やはり、自分の中は、狂っているとしか言えませんでした。狂いに狂って、私は、今生生まれてきました。父も母も周りの人すべてが狂っていた。その中で、私は、心を見るそんな環

境を設定してきたのですね。苦しかった、ただただ苦しかったです。

異語。

***さん、どうぞ、お母さんに心を向けてみてください。そして、田池留吉を素直に思ってみてください。

異語。

お母さん、お母さん、ああお母さん、申し訳ありませんでした。すごいエネルギーで、母にぶつかっていった私の中でございました。こんなに苦しかった私を、あなたは生んでくださいました。肉の私は愚かだということを、肉を自分だとすることが愚かだということを、私は、今世、少しだけ、感じさせていただきました。

すさまじいエネルギーを自分の中に蓄えてきた私の転生の数々、苦しくて当たり前でございました。そして、これから、まだ転生が続きます。私の中にすさまじいエネルギーをしつかりと確認するために、次の転生、そして、次の転生へと私は、自分を導いていきます。

田池留吉、田池留吉…、素直に田池留吉を思ってくださいと言われたとき、ああ私は、本当に素直でなかったんだなあ、今そのように感じさせていただいています。素直に心を向けるということ、私はしてきませんでした。ああ、申し訳ございません。赤子のような思いで、田池留吉を思うこと、それが私には容易ではありませんでした。心の底から田池留吉、本当の自分を憎み恨む思いが、どんどん湧き出てくる。それが私でございます。こんな私が幸せになれるはずがありませんでした。喜びを感じられるはずありませんでした。本当の私を私は足蹴にしてまいりました。

二八七、****さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、****でございます。お母さん、私は、間違っていました。己偉い思いから、私は私の道が、全く見えなかった。私自身が全く見えなかったです。今、心を手探り状態で進んでいます。どんなに進んでいても、私の中にはまだまだ暗闇の中にあります。でも、こうやって手探り状態で進んでいこうと思えた今世、これが私の収穫でございました。

今までは、私自身、それどころではありませんでした。私は、自分の中に、明るい出口を

見つけようと、手探り状態で、今、自分の道を歩いていこうと思えること、それが私には、とても嬉しいです。

手探り状態ですけど、私自身とても嬉しいです。

****さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

****でございます。田池留吉、お母さん、ありがとうございます。申し訳ございません。どんなに間違いつけてきても、私は、今ここに語らせていただいています。それがとても嬉しいです。暗闇の真つ暗な中で生き続けてきた私に、ほっと一息つかせてくれた今世でございます。今世のこの安らぎ、ほんの僅かに心に感じている安らぎを、私は信じて、これからも歩き続けてまいります。私は、私の道を歩き続けていきます。お母さん、ありがとうございます。今まで私のことを、本当に、本当に、ありがとうございました。

二八八、****さん、心を聞かせてください。

****でございます。苦しい中を私も生き続けてきました。己偉い私でした。どれだけ、どれだけこのエネルギーを流してきたことか、本当に申し訳ございません。田池留吉に対して、私は半端ではないエネルギーを流し続けてきました。本当の私を足蹴にしてきました。それが、今、心に響いてまいります。瞑想を重ねていきます。お母さん、私は間違つてまいりました。

****さん、あなたも学びの年月は長いです。どうぞ、あなたが語られたように、瞑想を続けていってください。さあ、田池留吉に思いを向けてみましょう。

異語。

田池留吉、心の中の温もり、心の中の安らぎ、私もきつと、きつと、この心の中に、思い出していきます。これからの時間を経て、心の中に、本当の安らぎと温もりがあったことを、しっかりと感じていきたい。今、そのように思います。

厳しい転生が待っています。でも、私も、二五〇年後に心を繋いでいこう、いきたい。そ

のように、今、私の中から思いが出てきます。

お母さん、申し訳ございません。できる限り瞑想を続けてまいります。心を見てまいります。

二八九、***さん、あなたは、この学びのことをどのよう感じておられますか。

私は、***と言います。不思議なことを自分の中に感じたい。不思議な世界を知りたい。知って私は、自分をもっともっと大きくしていきたい。誰からも素晴らしいと言われる自分になりたい。そんな私の思いを抱えてきました。

ああ、この学びは、自分の心を見る、それしか言ってくれないけれど、私にもどうか…、何か自分の中を見通せる、やはりパワーを見出したい。そんな思いで、私はいます。

***さん、どうぞ、あなたが今語ったその思いはどこから来るのか、それを、しっかりと見ていってください。偽のパワーを求める思いが、あなたの中にも、しっかりとあります。その思いは、自分を破壊させていくエネルギーでございます。過去から、あなたも、その学習があると思います。それを、どうぞ、今世、あなたの心を見ることを通して、感じていって

ださい。

お母さんにどんな思いを使つてこられましたか。お母さんを思わず、お母さんをないがしろにして、あなたは、あなた自身に分かるはずがありません。

ただし、お母さんというのは、あなたの思っているお母さんではありません。でも、あなたは、まだこの学びの時間が浅いですから、まず、あなたを生んでくださったお母さんの反省から始めてください。そして、そのことを通して、お母さんという意識、その世界にあなたの思いを向けていってください。

まずは、お母さんの反省からです。ここを飛ばしては、何も分からないのです。それどころか、お母さんの反省を飛ばして、分かろう、分かりたいとする思いは、あなたをさらに苦しみの中へ落としていくことも、付け加えておきます。

二九〇、****さん、あなたの思いを語ってみてください。

私は、****でございます。私の人生は、いったい何だったのでしょうか。苦しい思いをしてきました。ああでも、いいときもありました。しかし、そんなものほんの僅かでした。

私は、苦しい、苦しい中を生きてきました。

そして、私は、まだまだ死ねない。まだまだこの肉体が今もここにあります。苦しい思いの中、私は、まだこの肉体を捨てることはできません。私の思いの世界は、真つ暗な、真つ暗な中に沈んでいます。私の心はどこにあるのでしょうか。誰か私のことを教えてください。

異語。

***さん、今語られたのがあなたなんですよ。あなたは、息も絶え絶えに、今、自分の思いを語られました。真つ暗な、真つ暗な思いの世界の中で、あなたは、じつと息をひそめて固まっている。それがあなた自身です。心を、あなた自身を、そこから解き放つために、あなたは、今生生まれてきました。お母さんに肉体をいただきました。

ああしかし、あなた自身、何も分からずに、何も知らずに、また肉体を置いていくようになるでしょう。どうぞ、今あなたが感じられた自分というものを、今度は少しでも、軽くしていくようなあなたになっていってください。そのために、あなたも、これからは転生のチャンスを持つでしょう。

今、あなたにお伝えしたことを、あなた自身が、あなたの心で証明していってください。

二九一、 ****さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、 ****でございます。心の苦しさを、私は本当に私の中で感じているのだろうか。そんなことを思っています。

心を見ていない。一言で言えば、そうだと思います。苦しい、苦しいって私は、自分では言っているけれど、自分の本当の苦しさを感じているのだろうか。そう自分に問うたとき、私は、表面的な、つまり肉体的な苦しさと、私は苦しい、苦しいって言っているだけだと、今思っています。

心の苦しき、私の本当の苦しきは、こんなところではなかった。そういうふうに、今感じます。心を見る。自分の心を掘り下げて見る。その難しさを、しみじみ感じます。

異語。

****さん、あなたは、あなたの生活の中で、焦らずに、じっくりと自分と向き合って

いけばいいんです。まだまだ年齢的には若いし、家族もあり、色々なことがあると思います。この学びだけに集中しようと思っても、肉的には難しいかもしれません。

人それぞれに学びをしていく道筋があります。どうぞ、焦らずに、今のあなたの現実から目を逸らさずに、しっかりと、まず肉の生活をして、自分のできるところから、心を見ていくください。

素直になつてみてください。日々のほんのひと時でいいんです。本当に素直になつて、お母さんとそう呼べるあなたがあればいいんです。そして、また、日々の生活の中で、自分と向き合いながらやっていくことをおさなりにしなければいいと思います。

あなたには、何か一足飛びに行こうとしている思いがありませんか。

あなたの今の現実を通して、焦らずに一步ずつ、たゆまずに、自分の本来の道を歩いていくこと、それをしていってください。

あなたの奥さんも学ばれています。どうぞ、互いに互いの心を素直になつて、さらけ出してください。怒りや苛立ちやその他の肉的な色々な思いを感じながら、しかし、それらの思いに惑わされずに、しっかりと自分達が本当にしていこうとする思いを、互いに語り合ってください。

道を求めてきたはずです。真実への道を、あなた方お二人も、求めてきたはずです。今はまだ、

互いに、しっかりとそれが分からないから、肉的な表面的な思いに苦しんだの、何だのと言っているだけです。

どうぞ、学びに対する真摯な思いだけは持ち続けてください。日々の生活を楽しみながら、しかし、基本は学びにある。その思いがあれば、互いに刺激し合いながら、いい学びの仲間になつていくと思います。

****さん、心を田池留吉に向けてみてください。

異語。

****でございます。はい、私も欲いっぱい学びをしていこうと思ってきました。そうではなかったことを、今、感じています。一歩ずつ、たゆまずに、焦らずにやっています。自分の歩いていく道筋を、しっかりと、私も見極めたいと思います。苦しい肉の時間の中で、苦しい私と出会い、そして、妻とともに道を歩いていきます。申し訳ございません。田池留吉、お母さん、まだまだ私達には、時間が必要だということを感じさせていただきました。よかったです。ありがとうございます。

二九二、***さん、あなたの思いを語ってみてください。

私は己を表してきました。己を誇ってきました。この肉は素晴らしい。肉は素晴らしい。素晴らしい私を認めよ。そんな思いを、ずっと、ずっと流してきました。その心はとても苦しい。本当に自分の中で、苦しい、苦しいって叫びを上げている。今世、私は、ようやくそのことを感じさせていただいています。自分の肉を通してそのことを感じる、そのような環境を設定してきました。学びに集う前は、もちろん、まだまだ己を表す思いを緩めることもなく、そして、学びに集ってから、その思いを、なかなか自分の中で、認めることができませんでした。なぜ、私の中にはこんなに苦しいのだろうか。そう私は、己を大きく、大きくそびえ立たせていたからだ。近頃になって、ようやく心で感じてきています。己をそびえ立たせている。そのことを心で感じてきている私でございます。

***さん、もっと、もっと、あなたに優しくなっていてください。あなたに優しくなっていくとは、どういうことでしょうか。お母さんを、ただただ思っていてください。あ

なたの中に本当の優しさ、本当の温もりを教えてくれたのは、あなたが下に見てきたお母さんです。何度も、何度も、転生の機会を得ました。でも、そのたびに、あなたは、お母さんを下に見てきました。己こそ素晴らしい。私こそ素晴らしい。そうやって、あなたは、自分の中を見ずに来たんです。今、そのことに、少し気付きかけています。どうぞ、そのことを喜んでいってください。

****さん、田池留吉を思ってください。

異語。

田池留吉、お前なんか、お前なんか……。私は、その思いを、ずっと、ずっと広げてきました。苦しい私なのに、お前なんか、お前なんかと、私の苦しい中を見ずに、エネルギーを外に、外に向けてきました。田池留吉、申し訳ございません。心の中に向けてまいります。自分にもつと優しく、本当に優しい思いで、自分を見つめていこう。そのように思つて、今、とても嬉しいです。ありがとうございます。

二九三、***さん、あなたの心を語ってみてください。

他力の中に沈み込んできた私の中は、とても苦しく、暗くて貧しくてやるせない。そんな私でございました。他力を求めてきました。他力のエネルギーを求め続けてきました。今世もそうでした。ずっと、ずっと、幸せになりたかったからです。自分の中が苦しいって叫んでいるのは分かっていたけれども、その叫びを、私は、他力のエネルギーで押さえ込もうとしてきました。今世もその道を歩いてきました。

しかし、ようやく、今世、学びに繋がって、自分の中を見なさい、見よう、そういうような自分の促しを素直に受けていこうとしています。今、私は、そのことを感じています。お母さん、私は、間違つて生き続けてきました。お母さんに、何度も肉体をいただいたけれど、お母さんの思いを、足蹴にしてきたのは私でございます。私でございます。

異語。

***さん、奥さんは、このように語られています。あなたは、この学びを知って、今、

幸せでしょうか。

異語。

****でございます。幸せを、私も取り違えてきました。今の年になって、幸せとは本当に自分の中から湧いて出てくるものだなあ、何がなくても幸せ、そんな幸せを感じられる自分にならない限り、私自身は、到底救われないのだなあ、今、そのように思っています。

ようやく、この年になって、そういうことを微かに思えるような私でございます。長い、長い転生を経てきました。長い、長い時間を経てきました。これからも転生が続いていくと思います。私にも厳しい転生が続いていくと思います。ああしかし、心を、自分の今感じている私を、忘れずに繋いでいこう、いきたい。そして、心からありがとう、本当にありがとう、と自分に言える私と出会いたい。そのように思っています。

異語。

はい、****さんのご主人も奥さんも、どうぞ、心とともに、田池留吉に向けてみてください。

異語。

互いに間違った自分を教えるために、心を見せ合いました。すさまじいエネルギーを見せ合いました。残された肉の時間、互いを労わりあって、少しでも、自分の心に安らぎと温もりを取り戻していく道を、その方向へと心に向けてまいります。お母さん、ありがとうございます。田池留吉、ただただ、その指し示す方向へ、心に向けてまいります。自分達が心に向けなければ、何も変らない、何も分からない。それを、今世、私達は、夫婦となり、互いに互いを見て、心で感じてきた私達でございます。ありがとうございます。

二九四、****さん、どうぞ、心を語ってみてください。

****でございます。心が苦しい、心が寂しい。お母さん、私の心をどうかしてください。そんな思いを、ずっと、ずっと、母に求め続けてきました。私は、強がっても、カラ元気を出しても、心の中の貧しさを自分で感じてきました。苦しい私、寂しい私、お母さんを必死で求

めている私、その私を、もう素直に認めていこうと思います。

私は、私を受け入れて、私は、私を許して、私は、私を見つめていかなければ、何も始まらない。今、私は、自分の心を語りながら、そのように、感じています。

肉の私がどれだけ崇められても、どれだけあなたは立派だねって人からの評価を受けても、私が私を一番よく知っています。私の心の貧しさ、心の醜さ、そんな私を自分の中で受け入れていきたい。今、素直にそう思えます。

*****さん、あなたの今世の肉の時間、どうぞ、自分を見つめるということに、最大限使っていただく。肉のことをしながら、自分を優しく、優しく、見つめる、そういうほうに心に向けていってください。

田池留吉に心に向けてみてください。

異語。

田池留吉、学びに繋がってきた私ですが、田池留吉の指し示す方向に素直に心に向けられ

なかつた私を、今、感じさせていただきました。自分を見つめてまいります。心をしっかりと見つめてまいります。

泣き叫んできた私自身を見つめ、そして、この私自身とともに、帰りたい。田池留吉、心の中のお母さんの温もりへ、自分をともしに帰りたい。今、そのように思います。田池留吉、心を向けさせていただいて、ありがとうございます。苦しい私が今、少し嬉しいって言っています。ありがとうございます。

二九五、***さん、心を語ってみてください。

私は、***と言います。たくさんの間違いを繰り返し、厭きもせずに行ってきました。心の中に、大きな、大きなブラックの世界を広げてきた。今世も、私は、せつかく真実の方向へ自分を向けていこうとする学びに繋がったけれども、己の欲心のために、その道を曲げてきた私でございました。

真っ直ぐに一直線に進めなくて、私は、今までやってきました。だから、苦しくて当たり前、そう当たり前だったんです。真実を知らずにきた私の心の中には、ただ、苦しさが広がって

った。それが、どうしても自分では納得できませんでした。私の求めてきた道が間違ってきたからです。

欲という思いを、しっかりと見てきませんでした。すべてが欲に繋がっていた。何かを求めてきたけれど、私のその何かを求めてきたその先にある思いは、欲の心でございました。今、そのことを感じさせていただいています。

欲心を持たなければ…、違いました。欲心も何も要らなかつた。何も要らなかつた。ただただ素直になればよかつた。そうすれば、自ずと、自分の中に、真実の世界が広がっていくんだ。今、私は、微かながらそのように感じています。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉、幾度自分を裏切ってきたことか。何度、自分を裏切っても、性懲りもなく、私は、今世もまた自分を裏切っていくこうとしました。そんな自分を感じ、今、とても申し訳なく思っています。心で感じることに、それが一番でございました。いいえ、それしかあ

りませんでした。頭では納得していました。心で理解するということ、私は、甘く、甘く、とらえておりました。心でしか分からない学びでございました。私は、そのことを、今、痛感しています。心で感じていくことがすべて、今、田池留吉に心向けさせていただき、そのように感じます。

ただただ、何もない自分の世界に、心を向けることが、どれだけ幸せだったか。私は、自分の中で、その幸せなときを思い出してまいります。お母さん、申し訳ございません。

二九六、***さん、あなたは、ご主人のことをどのように思っておられますか。

私の心の中の苦しさを吐き出させてくれた人、私の心の中の醜さを見させてくれた人、そのように私はとらえてきました。今もなお、私の心を見させてくれていきます。主人の一言、主人の態度、ああ、私の心の中には、まだまだ主人を素直に受け入れる思いが、足りないように思います。

主人を本当に愛しいと思っっているか、そのように、問いかげられたように思います。ご主人のことをどのように思っていますかと言われたときに、そのように私は感じました。

はい、私は、主人を心の底から愛しいという思いには、まだ至っていません。心の苦しさを見させてくれた人、心の醜さを私に感じさせてくれた人、そういう意味では、私のいい教材でございました。私の心の中を、えぐってくれた人です。ああでも、そのところから、私がその人を通して、その意識を愛しいと思えるか、ああ私は、まだまだでございました。

自分の中の苦しさは、まだまだ続いているなあ、そういうふうに感じます。

ああでも、こうやって心を語らせていただいて、私は、少し自分の中に、思いを向ける喜びを感じさせていただきました。こうやって、私は、自分と対話すればいいんですね。心の中を見てまいります。私を見てまいります。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、はい、私は、まだまだ自分がそびえ立っていることを感じます。自分では、少し、このそびえ立った自分を見てきたかなあと思ってきましたが、私はまだまだでございました。

苦しい、苦しい中を生まれてきた私でございました。どんなに苦しくても、私は、私に肉

体を下さいと、そうやって、今世、私は肉体をいただいたのですね。今、心にそのような響いてまいります。

異語。

二九七、***さん、心を語ってみてください。

心の寂しさをどのようにすればいいのか、私には分かりませんでした。母を求めてきた私の中、寂しい、寂しい思いでいっぱいございました。

その寂しさを、己の欲のために、全く間違った方向で癒してきた私を感じます。お母さん、申し訳ございません。私は、間違ってきました。自分の心の寂しさは、お母さん、あなたに思いを向けることで、私は、自分の中で包んでいくことをしてきました。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

****でございます。田池留吉、私は、母を求めてきました。心の中の寂しさを癒してくれるものを求めてきました。金、女、色々なものに心を寄せてきました。でも、自分の中の寂しさ、苦しさはどうすることもできなかった。そのことを、今世の私は、少し学ばせていただきました。

心を見ることを、自分なりにやってみて、私は、この中に苦しい思い、寂しい思いが、いっぱい詰まっていることも感じさせていただいています。

苦しい私、寂しい私は、自分を自分で知らなかったから、どんどんどんどん自分で大きくしていったんだなあ、今、そのように思います。

田池留吉、心に歯向かう己の思い、しっかりと見つめてまいります。

二九八、****さん、あなたの思いを聞かせてください。

私は、****でございます。お母さんに使ってきた心を見ていくと、私は底なしに苦し

いことが分かります。私の中は底なしに苦しい。お母さんをどれだけがしろにしてきたか、お母さんを見下してきた私を感じます。

お母さんを思う瞑想がなかなかです。私は、心の中に母を思い浮かべるとき、自分のすさまじいエネルギーで、自分が狂いそうになるときがあります。これすべて私でした。私の世界でした。

母を思う瞑想を続けていると、私の中のすさまじさを、もろに感じます。狂ってきた私もろに感じます。それでも、私は、このように肉体を、今世もいただいたのですね。

しかし、このことを、自分の中でしっかりと知っていくためには、私には、まだまだ時間が必要だと思えます。

私は、素直になって喜べない。なぜ私を生んだのか、なぜ、私は、肉体をこのように今持っているのか、まだまだ素直に喜べない私があります。

どこまでも、どこまでも、苦しい、苦しい中を生き続けてきた私を、受け入れられない私があります。

暗い、暗い、どん底の中で、苦しみ喘ぎ続けてきた私の世界です。

それでも、今、ようやく、このように、少し語らせていただいています。何度転生を繰り返しても、苦しみの底にあった私は、今少し心を開いて、自分の苦しさを語らせていただける

こと、それが幸せでございます。

異語。

***さん、どうぞ、苦しい中でも、お母さんに向けて瞑想を続けていってください。苦しい中でも、ただただ母を思う瞑想を続けていってください。それしか自分自身を明るい方向へ向ける手立てはないことを知ってってください。

異語。

***さん、田池留吉に心に向けてみてください。

田池留吉、心から田池留吉を呼べない私が、ずっと、ずっと、私の中にありました。心を素直に田池留吉に向けることが、私はできなかつたです。田池留吉、今、心に少し素直さを取り戻していきそうな気がします。

素直に田池留吉と呼ぶときに、私の中は、苦しい、苦しい、苦しい。だけど私の中は、そ

れを求めていることもまた感じます。

二九九、***さん、あなたの思いを聞かせてください。

私は、***です。お母さん、お母さんを求めてきた私の中を、私は信じていることができませんでした。お母さんを必死で求めてきたのに、私は、私を信じていることができなかった。それが私の苦しみでした。お母さんの思いを、私は、素直に受け取ることができませんでした。心を見ていくと、お母さんの反省をしていくと、私は、ずっとお母さんに対して、ずっとそうだった、ずっと、ずっとそうだったと感じます。

あなたは、幸せになるんですよ、そうやって、お母さんは、私を生んでくれたはずですよ。いつの時も、そうだったはずですよ。私を苦しめるために、お母さんは私を生んだのではなかった。私は、そのことが、分かりませんでした。こんな簡単なことが分かりませんでした。

苦しみは、自分の中で作ってきた世界でした。なぜその苦しみの世界を作ってきたか。なぜ苦しい私だけを広げてきたのか。今の今まで、私は、ずっと知らずにきたんですね。今世、お母さんの意識に思いを向けさせていただく機会を得ました。今、そのことが感じられます。

*****さん、あなたも田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉、心の中に色々な思いが湧いて出てきます。田池留吉に向けるとき、私の中には、許せない、ああ許せない…、ああこれだけの苦しみがあったのか、今、そのように感じさせていただいています。

素直に自分を語ることは、苦しいことではありませんでした。素直に自分を語ることに、それは喜びでございました。自分の中を見てまいります。お母さんに向けて瞑想をして、自分の中で、異語で語ってまいります。

三〇〇、*****さん、あなたの心を語ってみてください。

*****でございます。私の中に響いてくるものがあります。苦しい、苦しい、助けろ、

何とかしてくれ、何とかしろ、お前はなぜ私達に心を向けないのか。そんな声というか思いが、私の中に響いてきます。

心を向けることを恐怖してきました。それが冷たいと、私は伝えられました。でも、恐怖が先に立って、どうしても心が向けられなかった。私は、それが自分だと思えなかったからです。苦しい、助けてくれ、何とかしてくれ、心の中にざわついている思いが、全部自分だったなんて、私は、到底信じられませんでした。

異語。

***さん、お母さんに向けて心を見ていってください。お母さんの温もりを、心でしっかりと感じられるあなたになっていってください。

それまでは、あなたの中に苦しみが続きます。お母さんの温もりを、あなたの中で感じると、同じものを感じても、その思いを受け入れていこう、自然にそう思えるのです。なぜならば、あなた自身が温もりだからです。温もりのあなたを感じたならば、あなたの中でざわついている自分を、ただただ受け止めて抱きしめてやりたい、そんな思いが出てきます。

それが、いわゆる、自己供養です。あなたがあなたを包み込んでいく。そのために、あな

たは生まれてきました。もうご存知ですね。どうぞそれを、あなたの中で実践していつてくだ
さい。

異語。

三〇一、***さん、心を語ってみてください。

私の寂しさは、ああすごいものでした。私は、寂しい、寂しい、寂しいって、膝を抱えて
うづくまつていた。誰か私の寂しさを分かってくれ。ああ、私は、寂しい。ただ抱きしめてほ
しかった。私をそっと抱きしめてほしかった。そんな私を感じてきました。

寂しいから、色々なものを求めてきました。心の中に向けることを知らなかった私は、心
を外に、外に向けてきました。寂しさを癒してくれるもの、自分を癒してくれるもの、そんな
ものを求め続けてきた私の転生の数々でございました。今世、私は、恵まれた環境の中に、肉
体を持ちました。その中で、私は自分の寂しい心を見る計画を立ててきました。父も母も、立
派な人です。私には、とても立派な人だと思えます。

肉の私は、父や母に、反発し反抗し、そういう思いを素直に出せないけれど、父や母は、私を可愛がってくれて、私によくしてくれました。

そんな中で私は、甘えて成長していったんですね。自分の心を見ることを知らなかった私は、周りに甘えてきました。申し訳ございません。

異語。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉、私は私の心がどこに向いているのか、分からずにやってきました。苦しい、苦しい中を生き続けてきた私の過去を感じます。

心の中に本当の私が存在している、その方向に、心を向けなさい、優しい思いを、今、感じさせていただいています。甘ったれの私は、自分を知らずに生きてきた、そう私は自分を知らずに生きてきました。

私は、これから、歩みはのろいかもかもしれませんが、自分の心を見て、自分の道を歩いてまいります。

***さん、あなたの今世のお父さん、お母さんに心に向けてみてください。

異語。

色々なことがあったけれども、ここに繋がった私でございました。お父さん、お母さん、あなた達の子供として肉体を持ち、ようやく、私は、自分を真実へ繋がる道に自分を歩かせようとしています。ともに学んでいきたいと思えます。肉の私は愚かですけれど、私は、今、語っている私、これが私でございます。

肉は愚か、本当のことを知らなかった意識の世界も愚か、でも、この愚かな私を、ともに学ばせてください。

三〇二、***さん、どうぞ、心を開いて、あなたの心を語ってみてください。

心を語ることを拒否してきた。心を語ることを恐怖してきた。そんな私を感じています。肝心なところで、いつも心を閉めてしまう。それを父や母や周りの人達は、何とか開けようとするけれど、私は、私の心を閉じてしまう。そんな私を感じています。

***さん、あなたは、あなたの家族のことを、どのように思っていますか。

色々とうるさいことを言われてきました。父も母も、みんな、みんなうるさかった。ただただうるさかった。私のことを思ってくれているのは、分かっていたけれど、私は、もっと、自由に自分をしてほしかった。大事に育てられました。でも、私は、父や母の思いが、とても苦しくて、心を、自分を、自由にできなかつた。そんな感じを、ずっと、ずっと持ってきました。

***さん、あなたは、まだまだ若いです。どうぞ、これから、色々な出来事、色々な人と出会って行ってください。その中で、あなた自身、自分を見つめていくというか、あなた自身の苦しい心をあなたの中で、確認して行って、そして、それを見つめて行ってください。

お母さんの反省をしていますか。お母さんに使ってきた心を書き出しましたか。これから、

色々な出来事や、色々な人に出会うと思います。あなたが悩み苦しむとき、どうぞその時、この学びのことを思い出して行ってください。そして、少しずつでもいいですから、お母さんの反省を進めて行ってください。

小さくまとまらなくていいんです。あなたは、あなたの好きなようにしていけばいい。そうして、あなたは、何かに、どこかにぶつかっていくでしょう。あなたの中に悩みや苦しみや、色々な迷いが生じてくるでしょう。そんな時、ふっとこのことを思い出してください。お母さんに対して、どんな心を使ってきたかなあ、そうやって、自分を振り返ってみることを、思い出してください。初めから、この学びを真っ直ぐにしていくなんていうことはあり得ません。これからの色々な体験を通して、自分の苦しみに出会って行ってください。

三〇三、 ****さん、心を語ってみてください。

私は、****でございます。母の温もりを忘れ去った心に、私は、今世、ようやく、その中に自分の本当の安らぎとか温もりを思い出そう、取り戻そう、そういうことを自分に興してきました。

どれだけ他力のパワーを求めてきても、私の心の中は、苦しかった。苦しくて、苦しくて、自分を消滅させようとしてきた心を、今思います。

本当に申し訳なかつたと思えます。自分に自分が冷たくて、冷たくて、だけど、こんな私を受け入れてくれた母の意識です。今、そのことを感じています。

どれだけの思いを流してきたか。どれだけのことをしてきたか。それでも私は、今ここに。ある。このことだけが現実でございます。今、確かに、私は肉体を持っています。自分を見つめる時間が、まだ私には残されています。出来る限り精一杯自分を見つめてまいります。

地獄の奥底のどん底から、私も生まれてきたことを感じ、これから、私は、その私自身とともに生きてまいります。自分を自分で殺してきた私の冷たさ、傲慢さ、言葉にできないほどのすさまじいエネルギーを見つめていきます。

肉の私は、愚かでしょうか。ただ、自分の中の必死の思いが、ようやく母の温もりに触れて、それが、心の底から響いてまいります。肉を表していく、そんなちっぽけなことは、どうでもいいです。

私は、私を地獄の奥底から救っていかねばならないのです。そう、私は、その思いを、心にかけています。

己を表してきたこと、申し訳ございません。私は、そんなどころではありませんでした。心

の中の苦しさ、どん底、心に響いています。

***さん、田池留吉を思ってみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉、田池留吉、心の中に呼んで、呼んで、呼んで…、これからも呼んでまいります。しっかりと心を向けてまいります。

三〇四、***さん、***さん、夫婦となられてよかったでしょうか。

すさまじいエネルギーを流し続けてきた私達にとって、この関係はとても苦しいものがあります。でも、自分のエネルギーを知るには、絶好のチャンスだと思っています。

他力のドロドロを互いに感じ合う。そんな設定を私達はしてまいりました。肉、肉の中では、本当に互いが互いを労わり合い、互いに愛し合う。そういうことは、あり得なかったのです。

肉だから、最後は、相手を憎み呪い、そして、ともに不幸せになっていくんだと感じています。そんな私達の過去を、今世、夫婦となって見てみよう、私達は計画してきたのですね。肉の生活の中で、互いが互いのエネルギーを感じ、そして、それぞれに自分の心を見つめる。こんな時間を自分達は用意してきました。

この学びに沿って、自分達の生活をしていけば、いつの日か必ず、本当に幸せな夫婦になれる。私達は、そう信じています。

どちらか一方がいいのでも悪いのでもなく、互いに互いを見ているだけだ、今、そのように感じています。

どうぞ、ともに、心を田池留吉に向けてみてください。

異語。

お母さん、お母さん、心の中にすべてを忘れ去ってきたように思います。

その心というものを思い出していきます。お母さんを思う瞑想をして、自分の本当の心を思い出していきます。本当は、苦しい私達が私達ではなかった。そのことを思い出すために今

の時間がある。そのように感じます。田池留吉、真実の自分へと心に向けることを、私達は自分に約束してきた。今、心に向けることによって、そう感じさせていただいています。

この今感じている思いに、素直になってまいります。

三〇五、****さん、あなたは、ご自分のエネルギーを感じられて、どうでしょうか。

私は、****です。破壊、破滅のエネルギーを蓄えてきた心を感じます。自分のエネルギーを感じ、私は、本当にすごい中を生まれてきたんだなあと、今思っています。お母さん、裏返して言えば、私は、お母さんをただだけ求めてきたんだなあと、感じます。

すさまじいエネルギーも、お母さんを求める思いが強いからこそ、今ここにこうして、素直に出せる機会がありました。

間違ってきた私の中、他力のパワーをたくさん、たくさん蓄えて、そして、今、ここに私は、肉体を持たせていただいています。学びに繋がらなければ、私自身、とつくの昔に破滅でした。素晴らしい自分をどんどん表していこうとするエネルギーは、とてつもなく大きなものでした。ああ、それが全部間違いだらけの自分でした。何もなくても幸せ、本当に何もなくても幸せだ

った。私自身が幸せだった。そんな私を、これからの私の転生の中で、きっと、きっと、心に感じていきます。

***さん、心を田池留吉に向けてみてください。

田池留吉、田池留吉、申し訳ございません。すごいエネルギーを蓄えてきたことを、心から感じさせていただきました。私にとって、こういう学びの機会を与えられたことが、とても幸せです。自分を感じていきます。自分の中のエネルギーを感じていきます。もつと素直にお母さんと呼べるまで、自分を感じてまいります。

三〇六、***さん、思いを語ってみてください。

私は、***でございます。私の心の中に寂しさが山ほどあります。寂しい、寂しい私があります。心の中を覗いてみることを、私はしたことはありませんでした。もちろん、何かを思ってきた、何かを感じてきた。そういうことはありました。ああでも、自分の心を語る、

心を覗く、私は、そういうことをしてきませんでした。

私の中には、たくさんの間違った思いが詰まっています。寂しい心も間違った思いなんです。自分の心が寂しいことが間違っているなんて思えなかった。ただ、ただ寂しい。なぜ寂しいんだろうか。そういうことは思ってきましたが、寂しい思いが間違ってきた思いだった。そういうことは、全然思いもしませんでした。

***さん、あなたは、今、どのような生活をなさっていますか。色々なことにあなたは興味があると思いますが、どうぞ、この学びに繋がった以上、あなたは、あなたの心を見ることをやっていってください。あなたを生んでくださったお母さんに使ってきた心を、見てください。しっかりと見てください。心の中に母親を憎む思いがありませんか。母親を恨む思いがありませんか。あなたが今までの年月に、お母さんに対して、どのような心を使ってこられたか、そのことを自分の中で確認していってください。

異語。

あなたの中にも、神を求める思いが、しっかりとあります。神とは、他力の神々です。あ

あなたの中に、神を求める思いがしっかりとあることを、自分で確認なさってください。

あなたにとつて、神とはどのような存在でしょうか。そういつたことも含めて、あなたの心が上がってくる思いを書き出してみてください。間違つた神を追い求めてこられたあなた自身が、浮かび上がってくると思えます。お母さんに使ってきた心、そして、あなたが神をどのようにとらえてきたか、この二点について、これからできる限り、あなたの中で確認してみてください。

異語。

三〇七、 ***さん、お母さんをどのように思つてこられましたか。

私は、母親を見下してきました。母をずっと、ずっと下に見てきた。何時だつて、私は、下に見てきました。母親を母親とも思つてこなかった。なぜならば私を見捨てたからです。母の思いは、とても冷たかった。私は、母を求めてきたのに、母は私の思いに応えることはなかった。そうやって、私は、母に齒向かつてまいりました。

それならば、母を捨ててやる。私を見捨てた母をこちらから、今度は捨ててやる。そんな思いを抱え、私は、ずっときました。だから、私は、苦しかったです。母を思う瞑想、時には、涙も出ます。でも心の底から、まだまだ、お母さん、ありがとうなんて言えません。

お母さんの温もりを、私は知っているはずなのに、まだまだお母さんに対するわだかまり、お母さんに対する暗い、暗い渦のような、黒い真つ黒なヘドロのようなものが私の中に、感じられます。

この思いを、しっかりと見てまいります。

***さん、どうぞ、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉、心の中に、田池留吉を求める思いがあります。素直になっていきます。素直になっていきます。私は、この肉を誇ってきました。肉の能力を求めてきました。肉で何でもできる。私は、自分の力で何でもやってやる。そんな思いで、この肉を誇ってきました。肉の私をそびえ立たせてきました。でも、心の底、心の中は、今、母に使ってきた心を語

ったように、ヘドロが、べったり張り付いている状態でございます。心を見てまいります。お母さん、お母さんに向けてまいります。

三〇八、***さん、あなたは、この学びを本で知ったのですか。それとも誰かの紹介ででしょうか。どちらにしても、あなたは、あなたの心を見ることを始めていますか。

私は、***と言います。心を見るということは難しいですね。お母さんの反省を始めてみました。でも自分の中で、母のことを思い出そうとするとときに、その時に自分が使った心を振り返っていますが、本当に私は、まだまだ上辺だけの思いしか思い出せません。

でも、母というだけで、何か私の心の底から、何かが突き上がってくるのを感じます。私を生んでくれた母親に対して、こんな思いを、私は流し続けてきたのだろうか、今、そう感じます。

ああ、そうではなかったんですね。私の中には、たくさん私がいて、私は、転生のたびに、色々な心を使ってきたんですね。それがお母さんと思うだけで、心の底から何か突き上がってくるのを感じる。そういうことだったんですね。私は、今、自分を語るときに、ああそうだ

ったのかと、自分の中で何か納得しています。お母さんの反省をしてくださいと教えられました。そうですね。私の心の底を知る方法は、お母さんだったんですね。お母さんが鍵だったんですね。今、そう感じます。

異語。

****さん、どうぞ、お母さんに向けて、あなたの思いをどんどん出していってください。お母さんにはストレートに自分の思いが出るはずですよ。どんな思いもお母さんに対しては、ストレートに出ます。どれだけ、こんな心、こんな思いなんかと思っても、お母さんには、即その思いが出るんです。それが、意識の世界の仕組みです。あなたの心を見やすいようにお母さんがいてくれていきます。そのことを、どうぞ、あなたの心で知ってってください。

本を読まれてか、誰かに紹介されてかは分かりませんが、あなたは、確かに学びに繋がりました。どうぞ、この機会を大切にしてください。あなたがもう少し、自分の心を見るというか、お母さんの反省をされていけば、私が、今このように申していることが、あなたの心で納得するはずですよ。そして、今世、この学びに繋がったことを、心から喜べるあなたと出会おうと、私は思います。

異語。

一日の中で、少しでもいいです。お母さんの反省をして、そして、その書き出した、あるいは、自分の中で確認した思いを振り返りながら、どうぞ、静かに目を閉じる時間を持っていてください。静かに自分を振り返る時間を持っていてください。

三〇九、***さん、あなたの心を語ってみてください。

田池留吉、お母さん、お母さんのほうに心向けると、私の間違ってきた思いが、そっくりそのまま私に戻ってきます。

お母さんの姿は、私の心の表れでございました。母と肉の母と生活をしていくこと、これは私が望んできたことだったのに、私は、その中で苦しい思いを広げました。どうしても受け入れられない心がありました。ああでも、今、母に思いを向けるとき、私は間違っていたんだなあ。私は、今ここにこうやってあることが幸せだった。それだけが幸せだった。その中

で自分の苦しい心、自分のすごいエネルギー、それを感じさせてもらうために、今私は、ここにこうして肉体を持たせているんだ。母に思いを向けると、そのような、素直な思いが響いてきます。

本当に、形の世界で自分を見ていると、苦しい思いは、よりいつそう苦しく、嬉しい思いも、やがては苦しみに変わっていくことを感じます。

私は、この学びを、やはり頭でやってきたことを感じていきます。心に響いてくることはたくさんあるけれど、でも、その一步を踏み出せないのは、頭、すなわち、肉で理解しようとしてきたからです。心の中に素直に語る自分を今、感じるとき、この今語っている自分をもっと、もっと、信じていこう、そのように思います。

***さん、田池留吉に心に向けてみてください。

田池留吉、くそつたれの思いが響いてくるけれど、このくそつたれが、私の中を、もっと、もっと、見てくれ、見てくれと叫んでいるような気がします。くそつたれの私でよかつたんですね。くそつたれを高く、高く積んできた私にとって、くそつたれが、本当に愛しいと感じることが出来るまで、ただただ、心を見てまいります。自分のエネルギーをしつかりと感じてい

きます。喜びの思いで、自分のエネルギーを見つめてまいります。お母さん、ありがとうございました。お母さん、本当にありがとうございます。

三三〇、****さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、****です。この学びに繋がったことを、私は嬉しく思っています。ああでも、正直申しまして、私には、なかなか難しい感じがしています。母の反省にしても、他力の反省にしても、私自身、やってきたつもりですが、私の中でもうひとつ、ピンとこない思いも出てきます。

それは、やはり、私は頭でやっているからなのでしょう。それとも、中にまだまだ、何かがあつて、それが私に促しをしてくれているのでしょうか。そんな私の今でございます。

真実というか、人間の本当に生きる道を、私は、探し続けてきたと自分自身思っています。だから、私の中には、他力のエネルギーがいっぱい詰まっていると思います。その他力の壁を崩すには、並大抵ではない。

今、私は、自分を語るとき、そのように感じます。

強固な壁を私の中で作ってきた、そういう固い、固い、自分の世界を、今、感じています。

***さん、そうですね。あなたの中には、ひとつの何か堅固な壁というか、他力の道を歩いてこられたあなた自身が作ってきた世界があります。その世界は、過去からずっと、あなたが作り上げてきたものです。だから、あなた自身が崩していくことができるし、また、あなたが崩していかなければ、崩れるものではありません。その難しさというか、そういうものはあります。並大抵のことではできません。

ですが、どうぞ、焦らずに、そして、田池留吉が伝えてくれたこの学びを信じて、一歩ずつやっついてください。

あなたには、大きな欲があります。欲というのは、あなた自身が何かを求めてきたその心を言います。あなたは人間の本当に生きる道を探し続けてきたと語られました、真実の世界からすれば、それは全くの欲でございます。そのところが、あなた自身、まだお分かりになっていない、そのように感じます。

ただただ、お母さんに生んでいただいたあなたを思ってください。

素晴らしいあなたがあなたを導くのではないのです。愚かでどうしようもなかったあなただからこそ、この学びに繋がり、そして、真実の方向へ心向けることができます。素晴

らしい自分が…という思いを見ていってください。この学びは、すごい学びですけれど、母の温もり、母の優しさ、本当に地獄の奥底で苦しみ喘いでいた自分を、そこから救い出そうとする本当の優しさが、心から湧いて出てこなければ、難しいと感じるでしょう。素晴らしいあなたを引き出してくれる学びではございません。

どん底のあなた自身を感じていく学びでございます。どうぞ、そのところを、お間違えないようにしていってください。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、私は、田池留吉の上に行く者である。お前などに私の心の気高さは分かるまい。そうやって、お前を見下してきた。ああ、この心がとても苦しい。母に歯向かってきた心でございます。あんな母親から生まれてきた私…、過去からずっとその思いがありました。今世の私は、そうではないと、肉では思っています、私の心の中は、母を見下し、母をないがしろにしてきた思いがたくさん、たくさん、詰まっています。

この心を、自分自身を見てまいります。

異語。

三一、***さん、どうぞ、あなたの心を語ってみてください。

ああ私は、もっと自由になりたい。自由になりたい。ああこんなに堅苦しい生活は嫌なんです。もっと、もっと、自由に羽ばたきたい。私は、いつもそのように思って、生きてまいりました。

心の中の苦しさ、寂しさ、それを私は、出すことを拒んできました。美しい自分、立派な自分、素晴らしい自分、華やかな自分を、そのような自分を、私は求めてきたけれど、私の中は、とてもとても、そんなものとは裏腹でございます。苦しみ喘ぎ続けてきた私自身を、今感じています。私の思いをどうやって吐き出せばいいのか、私は、まだよく分かりません。ただただ苦しい。だけどそんな自分は許せない、受け入れられない。だから、余計に苦しみが募ってくる。そんな私でございます。

***さん、ご主人に対して、どのような心を使ってきましたか。

異語。

形は寄り添う妻を演じてきました。ああでも、心の中は造反してきました。苦しい、苦しい私の思いを、ちつとも分からずに、あの人は、自分勝手に、いつも生きてきた。私達家族のことを思っているようで、あの人は、自分のことしか考えていない、あの人はとても冷たい人だと、私は、感じてきました。ああこの心、とても、とても、主人に感じられたくない。そんな私は、この心を、必死で抑えてきました。形は寄り添う妻として、従う妻を演じてきました。その中で、私は、ただただ苦しかったです。

ああだから、もっと、自分を自由にしたかったんだと思います。自分の思いを、主人にもつとぶつけてみたかったんだと思います。

私にだって思いがある。私にだって行きたいところもある。私にだって…、そういう思いと言葉を、飲み込んできたように思います。

ごめんなさい。はい、今、主人に対する思いを語り、主人のほうに思いを向けるとき、あ

あそうではなかった、そうじゃなかったと、何だか自分自身が少し間違ってきたことを感じて
います。

***さん、お母さんに心を向けてみてください。お母さんの反省は、どうでしょうか。
あなたなりにやっつけてられましたでしょうか。

異語。

はい、母に対しても、主人に対して使ってきた心同様、私は、母から逃げたかった。母か
ら自由になりたかった。私は、何もかもから自由になりたかった。肉の私は、そんな勇氣も度
胸もないくせに、心だけは、勝手に一人歩きをしてきた、そのように感じます。

母のことを、ああ、本当は思いたくもないのかもしれない。母を思えば思うほど、自分の
苦しさ、醜さ、嫌らしさが感じられるから、私は、そんな私に蓋をして、母を思うことをしな
いのかも知れません。

真剣に本気になつて、母を思うことをしてこなかったように思います。上辺だけの反省は、
やっってきたつもりです、ああでも、それでは自分の中を感じていくことは、到底、無理なんで

すね。今、私は、そのように感じていきます。

お母さんを、しっかりと思っています。お母さんを思うことは、私自身を思うこと、私の心の苦しさを思うこと、その苦しさを吐き出していくこと。そうやっていけば、私のこの心の苦しさを吐き出していけるんだなあ、今、そのように思います。

異語。

三二二、***さん、今、あなたのお父さんやお母さんの心を聞かれてどうでしょうか。あなたも、セミナーに参加されてきたようですが、あなた自身、今どのような思いを持っていますか。

はい、私は、父や母の子供として、今ここにあることが、やはり幸せだと思えます。私自身、色々な苦しい心を抱えているけれど、それでも、私は、今、幸せです。もちろん、肉の幸せだけ、この中で私自身が、しっかりと心を見なさいと、そのように、父や母から伝えられていることを感じます。

本当の喜びや本当の幸せは、私自身まだ分からないけれど、肉の私として、その中にあることを喜んでいこうと思います。

***さん、これからの人生の時間の中で、どのように生きていくかは、あなたの自由です。あなたが選択していくことです。でも、今、あなたが語られたように、どうぞ、本当の喜びと本当の幸せを感じられるような生き方をなさってください。

肉としてのあなたが、ただ単に、嬉しい、幸せ、喜びと感ずることはどうでしょうか。時がくれば、それはやがて色褪せてくるのではないのでしょうか。でも、不平や不満や愚痴を言って、暗い顔をして毎を送るよりも、あなたのように、喜んで日々の時間を過ごしていけば、あなたのお父さんやお母さんが、この学びに繋がっておられるから、あなた自身も自然とこちらのほうに心が向いていくでしょう。

間違ってきたあなた自身が、色々な形でこれから、あなたとの出会いを待っていると思います。肉のあなたは、それに脅えずに、驚かずに、どうぞ、自分の中の自分が出会っていつているんだなあと、優しい思いで見つめていつってください。そうやって、自分の中に思いを向けることをしていつてください。

あなたの中には、たくさんのあなたが存在しています。

このことをしっかりと心に留め置いて、これからの人生を生きていってください。

三三三、***さん、心を語ってみてください。

はい、私は***です。ああ、どこを向いても苦しかった。何をしても苦しかった。私のどこが間違っているんだと、私は、ずっと、ずっと反抗してきました。反発してきました。一生懸命にやってきた私のどこが、どのように間違っているんだあ、そのような思いでずっときました。

ああでも、全部、何もかも全部間違っていたんですね。基盤が違うということは、そういうことでした。基盤が違うということが、間違いだっただけです。私は、肉の基盤で、私のどこが間違っているんだ、一生懸命にやっているじゃないか。それは、私にだって、色々な癖があるし、色々な思い癖がある。だけど、そんなのみんな同じじゃないか。生きていくためには、大変なことだってある。黒いものを白と言わなければならぬときだってある。そんなの当たり前じゃないか。そうやって、私は、ただ反発していただけなんだと、今、思います。

妻に対しても、その思いでやってきました。こちらがこれだけ一生懸命やっているのに、お

前は、何が不満なんだ。何を私にいったいしろと言うんだ。そういう思いで、妻とずっと接してきました。

優しい思いも出ます。ごめんな、そんな思いも出ます。ああでも、私の中には、その思いよりも、やはり自分の苦しい思いがどんどん出てきて、誰にも何も言わせない、自分のエネルギーで、周りをみんななぎ倒してきた、そんな私を感じます。

****さん、お母さんを思い、田池留吉を思う、あなたも生活の中で、そんな静かな時間を持つていますか。お母さんを思ったって、田池留吉を思ったって、どうなるものでもない。そういう思いで、ずっとあなたはこられましたね。そうではないんです。確かに、肉の生活の中では、黒いものを白と言わなければならぬときもあるでしょう。でも、あなたは、この学びに繋がって、肉の田池留吉を知って、そして、自分の中を見る。そういうことを知りました。セミナーにも、長い年月、通われました。それは、あなた自身が、本当に優しいあなたと出会いたい、本当に優しいあなたを信じていきたい。その思いが、とても強いからです。

肉のことを持ち出せば、平行線です。でも、あなたのその素直な思いを、肉のあなたも、一度信じてみて、そして、どうぞ、田池留吉の指し示す方向へ、難しいながらも、どうぞ、その一歩を歩み出してください。

おそらく、あなたの奥さんも、徐々にはありますが、心の向け先を変えてこられていると思います。

どうぞ、あなたも、ともに学んでいってください。

田池留吉に心に向けてみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉、お母さん、お母さん、お母さん、どうしようもない自分の中を、このように語らせていただきました。お母さんに生んでいただき、今、自分を語らせていただきました。閉塞感の中にあつた自分を解き放していこうと、私は、思っています。

ただその方法が分からなかっただけです。エネルギーをぶつけても、私の心は、私自身は、ちつとも幸せにはなりませんでした。その方法を、私は、今世教えていただきました。

お母さん、お母さんを思い、瞑想をしまります。田池留吉、いつの日にか、あなたの指し示す方向に、真つ直ぐに、私は、自分を向けてその方向へ、どんどん進んでいきたいと思えます。今世、そして、次の転生、そちらの方向に心に向けてまいます。

三二四、***さん、心を語ってみてください。

私は、***です。心にピンピン響く思いを、自分自身でコントロールすることが難しい。私は、そう思っています。

私なりに学びを進めてきたつもりです。父や母の姿を見て、父や母から流れるエネルギーを感じて、そして、またそれを受けて、私は、自分のエネルギーを自ら見てきました。

私の中は荒れ狂っていることを感じてきました。間違ってきた、どうしようもない自分を、まだまだ私自身は、素直に優しく抱きしめてやれないけれど、私もこの心に、本当の安らぎと、本当の幸せ、喜びを広げていこうと、今思っています。

私のこれからは、色々なものを感じて、心の中は、あっちへ行ったり、こっちへ来たり、色々自分の中で苦しみ喘ぐだろうと思います。

だけど、私は、この学びを知ったことを、自分の苦しい心に伝えていきたい。そのように思っています。まだまだよく分かりません。ただ、そういう思いを自分の中で感じていることを、私は、今、語らせていただいています。

***さん、あなたの素直な思いを、どんどん出していってください。

エネルギーは、すごい大きなものだと思います。あなたのお父さんやお母さんを、身近に感じられて、あなた自身を感じられてきたと思います。

同じエネルギーが、あなた自身の中からも流れていつていることを、知っていていってください。ですが、あなたは、年齢も若いし、これから、まだまだ時間があると思います。よしんば、あなたに時間が残されていないとしても、大丈夫です。短い時間であったならば、その時間内に、あなた自身、一生懸命、自分と向き合ってください。

肉の時間の長い、短いは、その人の意識の世界に、あまり関係がありません。どの時点で、本当の意味で自分をしっかりとさせっていくか、そして、それを次の転生に繋いでいけるかどうか、ただそれだけでございます。

心を見なければ、つまり、自分のエネルギーを知って、なぜ自分が肉体をもらってきたのかを、心で知ることがなければ、何度生まれ変わっても、苦しみは続きます。

ですが、自分の生まれてきた意味を知り、肉体の持つ意味を知った意識は、同じものを受けていっても、中が変わっていつているから、それは、喜びへの道へと変わっていくのです。そのことを信じて、あなた自身、どうぞ、しっかりと生きていってください。

異語。

***さん、あなたも、田池留吉、アルバートを思ってみてください。

異語。

田池留吉、アルバート、心の中に広がっていく世界。私は、この世界を信じてこれからも存在し続けます。肉は愚かです。肉の私は愚かです。中のエネルギーに振り回されるときがあるかもしれません。

でも、しっかりと私は、中を見つめてまいります。中を、田池留吉、アルバートの方向に向けるように、私自身、しっかりと心を見てまいります。

お母さん、田池留吉、ありがとうございます。

アルバート、アルバートを思うとき、私の中に強烈な喜びが感じられる。まだまだそれは、私の中で微かだけでも、これから、私は、この喜びを二五〇年後に向けて、爆発させていくと思います。

三二五、****さん、どうぞ、心を語ってみてください。

****です。そびえ立ってきた私自身を振り返り、今、本当に自分の愚かさを感じています。母を見下し、見下げ、どうしようもない自分でした。あんな母親から私が生まれてきたこと自体が信じられなかった。どうして、私は、あんな母親から生まれてきたのか、こんなに素晴らしい私なのに、その思いが私のエネルギーとなって、今世、この肉を誇る方向に使ってまいりました。ああでも、私自身、とても心が苦しかったです。苦しみの中を生き続けてきました。

今は、年齢も重ね、自分自身、色々な体験を経て、少し心が軽くなっています。以前と同じ場面と出合い、同じ心を使っているようでも、私の中が軽くなっているように思うから、それをやはり嬉しさで受けていこうとしています。

お母さん、あなたにはすごいエネルギーを流して、本当に申し訳ございませんでした。すべて、私を見なさいと私に言ってくれていました。肉の私は、それが、なかなか素直に受け取れなかったです。

でもこうやって、私を語っているとき、あなたの本当に大きな、大きな世界を感じます。肉

ではなかったんですね。お母さん、私は、今、ふとそのように感じさせていたいています。私も、これから、二五〇年後の最終時期に照準を合わせて、自分を転回してまいります。どれだけ厳しい転生が待っていていても、私は、必ず自分を転回してまいります。そして、二五〇年後を迎えたいと思います。今、語らせていただけることが幸せでございます。

****さん、田池留吉に心に向けてみてください。

異語。

田池留吉、間違つてまいりました。間違つてまいりました。何が間違つてきたかつて、すべてが間違つてきた私を感じます。心を見てまいります。この中に蓄えてきたエネルギーを、もっと、深く見つめてまいります。

田池留吉、そしてこの学びに出会わせていただいたこと、喜びでございます。

異語。

***さん、アルバートに心を向けてみてください。

異語。

アルバート、アルバート、アルバート、二五〇年後にお会いするアルバート、あなたを感じます。苦しい中を生まれてきます。私も、苦しい中を生まれてきます。二五〇年後までに、いくつかの転生を重ね、苦しい中を、私は肉体を持ちます。そして、アルバート、あなたに出会います。心を繋いでまいります。アルバート、待っていてください。私は、心を繋いでまいります。

三二六、***さん、心を語ってみてください。

***でございます。苦しい私の心を見ずに、私は、ずっと存在してきました。そして、この学びに出会いました。お母さんの反省を通し、他力の反省を通し、自分の心を振り返るにつけ、本当に、そびえ立ちの自分と、愚かな自分を感じます。

アマテラスを神として、私は仕えてきましたが、その心の苦しき、冷たき、厳しき、数々感じさせていただきました。人の中に温もりや、優しき、幸せ、喜びを求めようとしてきた自身の愚かさを、どうぞ、許してください。心を田池留吉に向けてまいります。お母さん、あなたに伝えていただいた私自身、もつと、もつと、感じてまいります。

静かに、静かに、心に向けるとき、母の思いが響いてきます。どうぞ、今の時間を大切にしていってください。そのように伝わってまいります。

*****さん、あなたには、学びの仲間が周りにおられます。娘さんもそうですし、お友達もいらつしゃいます。もちろん、アマテラスの心を心として生きてきた意識の繋がりますが、その繋がりの中で、どうぞ、アマテラスに優しい思いを流しながら、歩んでいってください。では、あなたも、田池留吉に心に向けてみてください。

異語。

自分自身に約束してきた道のりを、私も、必死で歩いていこうとしていることを感じます。愚かな肉でございました。心を、ただただ田池留吉、真実の自分に向けてまいります。肉をい

ただいている今の時間、大切にしていまいます。そして、ともに学んでいきたいと思えます。本道の道に繋がってきたアマテラスの仲間達とともに、学んでいきたいと思えます。ありがとうございます。

三二七、 ****さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、****です。他力の中に埋もれてきてしまった私の中で、少しだけ、ほんの少しだけ、ああ間違ってきたなあと思える私があります。

拜んで祭って手を合わせてきました。幸せになりたかった。幸せにしてください。他力のエネルギーを、ずっと、ずっと、求めてきた心に、この思いが、苦しくて、苦しくて、間違ってきたのではないか。今、少しだけそう思わせていただいています。

手を合わせることに、心の中で手を合わせることに、心の中で拜むこと、心の中で祈り続けること、止めることは難しいけれども、私は、その止める方向に向いていきます。どうしても手を合わせてしまいます。心の中で、手を合わせてしまいます。その思いは、今、とても苦しかったです。自分を知らない思いだったということを感じさせていただいています。

****さん、田池留吉に思いを向けてみてください。

異語。

田池留吉、私は、あなたを見下してきました。心の中に、私は、信じるものがございました。他力のエネルギーが私を牛耳ってきたことを、今、感じます。

お前、田池留吉に心を向けるな。そんな思いを、今感じています。それよりも、私に心を向けよ。私を拜め。私に手を合わせよ。ああ、そうやってきたではないか。そのような思いが心に伝わってきます。

田池留吉、ああ、私は、このように、あなたを遠ざけてきました。

私自身でございました。私の中が、このように伝えていたのです。この心を見てまいります。お母さんに向けて、この心を見てまいります。

間違ってきたことを、私自身に伝えたい。伝えたい…。

今、伝えたいという思いを語らせていただいたとき、ああ、間違ってきた、本当に間違ってきたと、今、感じています。ありがとうございます。

三二八、*****さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、*****です。美しきもの、気高きものを追い求めてきた心、それは、イエスキリストに繋がります。私の中にイエスキリストが…。

ああ、ああ、高く、高く、私は、イエスキリストを奉っています。この心を私自身、まだ見ておりません。なぜならば、私は、この心に気付いていないからです。キリストをこれだけ崇め奉ってきたのか、私自身は、まだまだ気付いておりません。

私は、この思いを、しっかりと心に蓄えてきました。イエスを神として崇め奉ってきたこの心は、私の中に、大きく、大きく、あります。大きく、大きく、広がっています。

*****さん、どうでしょうか。今、あなたが語られた思い、あなた自身、思い当たるところがございますか。信じられますか。それとも、まさか、まさかという思いがありますか。

私は、今、あなたが語った思い、イエスに対する思い、あなたそのものだと思っています。感じています。

あなたは、この学びを真正面からとらえることができないう大きな理由がここにあります。あなたの奥さんもそうです。どうぞ、しっかりと心を見ていってください。

奥さんの大病から、あなた自身、もう少し、この学びに心向けられるかと思ってきましたが、私からすれば、まだまだのような気がします。

どうぞ、あなたも、そして、奥さんも、今世の時間、できる限り、心を見て、お母さんの反省をして、他力、特に、イエスに対する思いを、自分の中で確認されて…、そういう時間に使ってください。

生活のことはあると思います。あなたの中には、まだまだ生活、すなわち、お金、それがあると思います。ですが、あなたの意識の世界は、あなた自身が語られた状態でございます。それを、引きずって、あなたは、次の転生へといかれると思いますが、どうでしょうか。

二五〇年後、私達と出会うその道筋にあると自分自身が感じているならば、どうぞ、今世の時間を有効に使っていってください。

心をしっかりと、田池留吉、アルバートに向けていってください。

異語。

田池留吉に心を向けてみましょう。

異語。

私は、****です。田池留吉、私は、あなたの肉に対してそれほどの抵抗はございませんでした。しかし、今、自分の意識の世界を語り、私は、自分のことが本当に何も分かっていたなかつたことを感じています。

田池留吉、申し訳ございません。お母さん、お母さん…、今、お母さんと呼んでいます。お母さんの思いを、私自身、しっかりと感じていきたいと思えます。

三一九、****さん、本を出版されて、今のあなたの思いを聞かせてください。

私は、****でございます。一生懸命に書かせていただきました。自分の中を、私自身、一生懸命見つめて、そして、文字にさせていただきました。しかしながら、本という形になつて、今を振り返ると、私の心の見方は、浅い、浅かった。そのように、今、感じています。学

びを真正面からとらえることをしてきませんでした。言葉を連ねても、私の心の中は正直です。自分は、どれほどこの学びを真剣にとらえてきたか、私は、そのところを、自分の中で訊ねると、まだまだ肉の基準で、私は心を見てきました。

やってきたつもりです。でも、それは肉を基盤としてやってきた。そのように、今、感じています。

私の意識の世界は正直です。肉は、一生懸命やってきた。私は、できる限りのことをやってきた。私は、この学びをやってきた。そのように、思っています。本を出版したことによって、私は、自分の中の一区切りがつけたことで、満足していました。ああでも、今、自分をこのように語らせていただいて、私の学びは、本当に浅いものだった。まだまだ真正面から、学びをとらえていなかった。今、そのことを確認させていただいています。

***さん、田池留吉に心に向けてみてください。

田池留吉、私の中に他力の思いが、まだまだ渦巻いています。他力の反省がまだまだ進んでいない。まだまだ私の中を押し隠している私があります。そんなところではありませんでした。私は、もつと素晴らしい私を表したかった。それが他力のエネルギーを、まだまだ自分

身見つめていない証でもありません。心を見てまいります。他力の心を、もつと、もつと、見てまいります。自分で培ってきた他力のエネルギーを、深く、深く、見てまいります。お母さんを思っています。自分のこの肉体時計がある限り、その方向に、心に向けてまいります。田池留吉、ありがとうございます。

三三〇、***さん、瞑想を続けていますか。あなたは、自分の心を語ることを、どのよう
うに思っていますか。

***です。自分を崩せない。肝心なところで自分を崩せない。瞑想を続けていても、私は、
自分の中で、何か、踏み止まっている自分を感じます。私の心を語ることを拒否している私が
あります。

心を語るな。語るでない。そんなに自分の心を深く見ていくことは、お前は、しなくていい。
私がお前を導いてやる。もつと幸せになる方法をお前に教えてやろう。そのような心の声
が、私の中にあると思います。

心を語ることを拒否してきました。今一步、心の奥深くに進んでいけない私を感じ、私は、

そう、恐怖も感じているのかもしれませんが。

自分を崩していくことの恐怖です。己が偉い、己がそびえ立って、私を崩していけないことを感じています。

***さん、どうぞ、お母さんに向けて、しっかりと心を見ていってください。瞑想をして、あなた自身が崩れるといっても、あなたがなくなっていくのではありません。もっと、もっと、優しいあなたが、そこから顔を出していくのです。本当の安らぎと本当の幸せ、お母さんの温もりを心に広げていってください。

この学びは形ではありません。形を整えることではありません。自分の中の素直な思い、本当に自分自身が見つめ抱きしめてやりたい思いを、自分の中で確認する学びでございます。

自分に正直に、自分に真摯に、自分に素直になっていくこと、それは、あなた自身がしていかねばなりません。どうぞ、お母さんの反省をしていってください。お母さんの反省が第一でございます。

***さん、田池留吉を思ってください。

異語。

田池留吉、心の中を暴かれたくない。心の中を見られたくない。そんな自分を感じます。まだまだ取り繕っている自分を感じます。

苦しい自分、どうしようもない自分、醜い自分、そんな自分が少し出てくると、私は、それを抑えようとする。自然にそのように心がいつてしまいます。私は、自分の中を、もっと、もっと見つめていきたいと思いますが、もう一方で、私は、そんな私を受け入れられない何か厳しさというか、そういうものを感じます。これは、私自身が、今伝えられたように、お母さんの反省を地道にしていかなければならないのですね。

瞑想をする時間を持つてみます。もっと、真剣に自分を見てみます。苦しい中を生まれてきた私だと思います。私は、私を解き放つために生まれてきた。今、田池留吉に心に向け、そのように心に響いてまいります。

三三二、***さん、心を聞かせてください。

真実を求めてきたけれど、私の中は、まだまだ程遠い自分を感じます。

他力の反省が自分の中でできかねます。心を見つめること、母の反省をすること、瞑想をすること、私なりにやってきましたつもりです。でも、他力の反省となると、私の中で、自分を阻止するエネルギーを感じます。

田池留吉の指し示す方向に素直に心に向けることができないエネルギーは、私自身が作ってきた他力のエネルギーでございます。

喜びを感じたい、幸せを感じたい、幸せになりたい、寂しい私は嫌だ、美しい私でなければ嫌だ。そんな心で、私は、他力の神々を求めてきました。それが私の中で、まだまだ、すうっと自分の中で、心を開けられないんです。なぜ、それが悪いのか、なぜ、それが間違っているのか、頭では分かります。私は、肉の私じゃないからでしょう。でも、私は、その基盤をまだまだ転回するに至っていないから、それは、頭なんです。

だから、他力の反省が、なかなか捗りません。どうしても、同じところを、行ったり来たりを繰り返してございます。

***さん、あなたはお母さんに対してどのような心を使ってこられましたか。お母さんを本当に愛しいと思っただけでこられましたか。

あなたは、他力の反省とおっしゃいますけれど、あなた自身、お母さんの反省が進んでいないから、他力の反省が進まないのです。お母さんの反省を、もう一度してみてください。

お母さんを思い出し、お母さんのほうに意識を向け、瞑想を続けることによって、お母さんの思いを、心で感じていってください。頭では、ありません。お母さんがあなたを受け入れてくれた、何もなければ0歳のあなたに戻ったとき、あなたの中に、何とも言えない優しさ、幸せな空間が広がっていくと思います。その心で、あなたが培ってきた他力のエネルギーを思ってみてください。

ちっぽけな世界だったんですよ。あなたは大きな世界だと思っています。だから、他力のエネルギーを自分の中で包み切れないんです。お母さんの温もりを心でしっかりと感じていないからです。どうぞ、お母さんの反省、そして、お母さんに向ける瞑想を続けていってください。

異語。

***さん、心を田池留吉に向けてみてください。

異語。

田池留吉、あんなやつに、なぜ私に分かるんだ。私の世界はすごいんだ。私は、すごいエネルギーの持ち主だ。こんな私をあんなやつに理解されてたまるものか。心で反発しながら、私は、この学びをやってきました。

この心をまだまだ私自身、気付いていなし、気付いていないから、見ようともしていませんでした。

今、心を語りました。すごいエネルギーでした。田池留吉に歯向かうエネルギー、田池留吉を殺しにきたエネルギー、私自身、心にまだまだしつかりと確認しております。母の反省をしております。母の温もりを感じて、そして、このエネルギーを自分の中で、しつかりと確認しております。

三三三、***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、***です。苦しいエネルギーも寂しいエネルギーも、すごいエネルギーでした。自分の中で感じています。間違ってきたことを感じています。お母さん、ごめんなさい。苦し

い私、寂しい私、全部、全部間違っていました。

私は、お母さんに愛されて、お母さんから生まれてきた、優しい、優しい心の持ち主でした。それなのに、私は、自分を自分で汚してしまいました。誰かが私を汚したのではなかった。自分を自分で汚してしまいました。

心の中にお母さんの思いを感じるるとき、私は、そのように、自分自身が響いてきて、申し訳ないなあ、間違ってきたなああって、自然に思えます。

そして、目を開けて、今の生活をしていくと、また私の中は、段々トーンが落ちていきます。真つ暗な私を感じ、どうしようもない私を感じます。ああ、私は、こうやって、自分を見つめていけばいいんだなあ、今、そう思います。

***さん、ご主人とはどうでしょうか。今、あなた方は、幸せでしょうか。

異語。

何と言いましても、ふたりともこの学びに繋がりました。その点で、私達はとても幸せだと思います。それぞれにエネルギーを感じ、すごいエネルギーを感じ合いながらも、でも、ふ

たり互いに自分の心を見させていただく相手として、私達は、ベストパートナーだと思っています。そういう意味で、私達は、幸せな夫婦だと思っています。

間違ってきた私達が、今、ここにこうやってあること自体、それを私は、喜んでいこうと思っと思っています。

苦しくて、苦しくて、苦しくて、苦しくて、苦しい中を生き続けてきた心に、お母さんの温もりを、少しずつでも伝えていきたい、伝えていこう、今、そのように思います。そうやって、私達は、生まれてきたことを感じます。お母さん、ありがとうございます。

異語。

***さん、アルバートに心を向けてみてください。

異語。

アルバート、アルバート、アルバート、異語…。

ああ、私は嬉しいです。アルバート、私は、嬉しいです。

二五〇年後、私もあなたに出会うことを感じます。苦しい、苦しい、苦しい、苦しい、私が言っているけれど、でもあなたに出会うことが心に感じられて、その苦しさがこれから、段々喜びの方向へ行くと思います。

私は、自分の中で、私自身を見つめてまいります。数々の転生を繋げてきて、これからも、もう少し転生を重ねます。

きつと、きつと、二五〇年後、喜びで、この心を広げていきたいと思えます。ありがとうございます。ありがとうございました。

三三三、***さん、あなたの思いを聞かせてください。

母親に使ってきた心のすさまじさを、私自身まだはつきりと感じていません。心を押し隠してきた私でございます。こんなはずはない、あんなはずはない、私は、自分のエネルギーを押しさえかかる、そのエネルギーのすごさを、自分自身まだ自覚しておりません。

心の中に溜め込んできたエネルギーは、すさまじいのに、それを私は正直に素直に出せない自分を感じます。だから心が苦しいです。

母に使ってきた心、それは、とても、とてもすごいものがありました。

私を支配するな、牛耳るな、私の上を行くな。そういう思いを、私は、ずっと抱えて存在してきました。己が一番だったんです。アマテラスの心に通じるエネルギーを感じます。アマテラス、アマテラス、私の中にアマテラスが、大きく、大きく、占領しているような、そんな思いがします。

心の中の苦しさを、もっと、もっと、自分で見つめていかなければならない。今、私は、そのように感じます。

***さん、田池留吉のほうに心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、くそつたれ、くそつたれ、くそつたれ。くそつたれ、くそつたれ、くそつたれ、はい、私は、くそつたれしか出てこない。くそつたれしか出てこない。くそつたれの私しか、今は感じられない。お母さん、ありがとう、生まれてきてよかった。お母さん、ありがとう。そんな思いを、私は、まだまだ自分の中で広げていくことができません。

ああすべて、頭でした。肉でした。私が感じていたお母さんありがとうという思いは、肉
的な思いでございました。心の中のエネルギーを、十分に吐き出してこなかった。だから、く
そつたれが、まだまだ自分の中に、はい、たくさん、たくさんございます。そのことに、私は、
今、感じさせていただきました。よかったですと思います。

これだけのくそつたれを、詰め込んできたのかと、我ながら驚いています。

三三四、****さん、あなたの思いを聞かせてください。

私は、****です。自分の中のエネルギーを自分なりに見てきたつもりです。学びに繋
がって、己の愚かさを私は感じてきました。エネルギーの大きさを感じてきました。

母に対して使ってきた心、周囲の人達に対して使ってきた心…、心の中は、荒れ狂った状
態で、私は、今の肉を持ちました。どうしても、どうしても、本当のことを自分自身に伝えた
かった私の思いとは裏腹に、私はやはりそのエネルギーに自分を翻弄させてきました。ずっと
そのようにやってきました。

学びをしてからも、自分の心の底にある思いとは裏腹な思いを、私は、ずっと流してきま

した。肉、形の世界から、自分を解き放つことができませぬ。

ですが、私は、恵まれていると思います。今の生活の中で、自分のすごいエネルギーを感じさせていただいているからです。すべて、私が望んできたことでございました。夫や子供や母に使ってきた心、使っている心、すなわち、それが私そのものでございました。今、それが、本当に恵まれている私自身だったということを、しみじみ感じています。

****さん、心を田池留吉に向けてみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉、ああ、田池留吉、私は求めてきました。求めてきました。心の中の真実を求めてきた。今、田池留吉に、心向けなさいと言われたとき、そう感じました。必死な私の思いを感じました。

愚かな私を許してください。愚かな私を許してください。私は、自分自身にそのように伝えたい。そして、これからこの愚かな私自身が、いくらかでも、本当の私の思いに沿って存在していけるように、自分の中をしつかりと見てまいります。

異語。

三三五、***さん、毎日が嬉しいですね。どうぞ、あなたもお母さんを思い、田池留吉を思つて嬉しいなあ、その思いで日々の時間を過ごしていつてください。

異語。

私は、***です。ありがとうございます。随分長く生かされました。私は年がいつています。本当に多くの時間をいただきました。ありがとうございます。

私は、自分の中のアマテラスの思いを、まだしつかりと、見つめるということをしておりませんが、それでもこのアマテラスの思いとともに、今世、このような時間をいただきましたことを、今、嬉しく思っています。アマテラスに仕えた私達の仲間が、私の周りにはいます。私は、この思いを抱えながら、また何度か肉をいただくことだろうと思えます。

振り返ってみますと、今、私は、この学びに出会えたことを喜んでおりますが、願わくは、

もう少し若い時分に出会っていればよかったなあと、そのような思いも湧いてきます。

ああでも、田池先生に出会わせていただき、何とも言えない優しい思いに触れさせていだきました。娘もよくしてくれます。お友達もおります。本当にありがとうございます。年老了いた我が身を振り返りながら、お母さん、ありがとう、田池先生、ありがとう、そんな思いが心の中から出てまいります。

異語。

さん、私は、田池留吉でございます。あなたの喜んでおられる思いが伝わってきます。ですが、意識の世界は、またそれとは少々事情が異なります。あなたの中には、アマテラスの思い、アマテラスに仕えてきた思いがしっかりとあります。あなたの妹さんのさんご夫妻も同じでした。

あなたは、そのアマテラスに使ってきた心、アマテラスに向けてきた心を、しっかりと、あなたのこれからの時間の中で修正していく方向に、向かわれるだろうと思います。

意識の世界は厳しいです。もちろん、肉の田池は、喜んでおられるあなたの思いを感じ、学びに出会って嬉しいとおっしゃってくださいましたあなたの思いを感じ、ありがとうの思いを、あ

あなたに伝えます。

しかしながら、意識の世界のあなたを感じさせていたとき、これからの転生の中で、あなた自身が本当のあなたに心を向けていくことをしていかねばならないことと、その時間を、あなたがあなたに与えていることを、お伝えしたいと思いました。

どうぞ、厳しい転生ではありませんが、心を繋いでいってください。二五〇年後、どこかで私の意識と出会ったあなたに、しっかりと伝えることができるよう、自分自身を大切にしていってください。

三三六、***さん、心を語ってみてください。

私は、***です。パワーを求めてきた心を、その心の向け先を、私は、自分の中でまだまだしっかりと持っています。変えずに持っています。パワーを求めてきた、それが間違っていたということは、分かりませんが、それ以上に、私の中は反発、反抗しています。

パワーを求める。もっと、もっととお前のすごいパワーを發揮せよ。我等がついている。パワーを發揮せよ。お前の中には、すごいエネルギーがある。そのパワーをもっと、もっと全開

していくんだ。

そのような思いが私の中で渦巻いています。これは、私自身が闇のエネルギーを求めてきた結果だと思えます。転生を繰り返し、その思いを強くしてきました。パワーを求めてきました。今もパワーを求めています。

お母さん、私は、お母さんの思いに触れるたびに、母に齒向かうエネルギーを大きくしてきました。

こんなことでくじけてはならない。私は、もつと、もつとすごい存在なんだ。お前になんか、誰が負けるか。温もりで、私を説き伏せることなどできない。パワーはすごいんだ。パワーこそすべてだ。

この心で、ずっと、ずっと存在してきた私の過去からの歴史は、今も心の中に、たくさん、たくさん、詰まっています。もちろん、この学びに繋がってからは、パワーを求める心、他方に繋がる心を、自分なりに見つめてまいりました。

ああでも、その思いは、とても強いんです。自分に自分が冷たかった。本当に自分に申し訳なかった。ふつと母の温もりに触れるとき、その思いが心によぎるけれど、それは一瞬です。また私の中に暗黒の世界が広がっていくことを、何度も体験してまいりました。

***さん、そうですね、他力の中に埋もれてきた私達です。特にパワーを求めてきたその心の世界を、一八〇度転回していくのは、並大抵のことではありません。それでも私達はやっていかなければなりません。やっていくようになっていくんです。どうぞ、諦めずに焦らずに、いつも、いつも、真摯な思いで、自分を見つめていってください。

どうぞ、田池留吉に、あなたの心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉、心の中に優しい思いが広がってきます。いつまでも、いつまでも待っていてくれた私自身を感じます。こんな私を待っていてくれた、その私自身の何とも言えない優しさ、思いの深さを、今、感じさせていただいています。

瞑想をしてみります。何も持たないゼロ歳の時の私を思い浮かべて、母と真向かいになって、瞑想をしてみります。求めることはいらなかった。私自身がパワーそのものだった。そのことを、心でしっかりと感じられるまで、私は、私の時間が私の中で流れていくことを感じます。

三三七、***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、自分の中に信じる神があります。これが、私の思いです。

この思いを、肉の私は、まだしっかりと自覚しておりません。

私は、過去よりずっと神を信じてまいりました。そして、今世この学びに出会わせていただきました。自分が信じてきた神というものが、ブラックである、結論はそうなります。ですが、私の中で、自分が信じてきた神がブラックだということを、私は、素直に認めることができませぬ。

この学びを否定する理由はありません。そう、否定する理由はないんです。でも、私は、自分の中の神、この神を絶対なるものだとして、信じてきた過去からの時間があまりにも長く、その思いがしっかりと自分の中にこびりついております。そのこびりついた思いに、まだ私自身、触れてはけません。神聖なるものだとして、私は、自分の奥深くに留めています。

この神聖なる場所に、自分の思いを届かすようになさってください、そんなメッセージが伝わってきます。

異語。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

心を向けたくありません。私は、心を向けたくない。真実に背を向ける私があります。

そうではないんですよ、あなたが信じてきたものは、間違っているんです、そうやって私が何度転生を許されてきたことか…。

それでも、私の中に、頑として受け入れられない自分自身を感じます。こんな私を感じたのは初めてです。

心の中の奥深くを見てごらん下さい。今、そのように伝わってきます。

私は、この学びに出会い、田池留吉に出会い…、そう、すべてが私の計画してきたことだったのです。私は、それを、軽く、軽く、受け止めていました。表面的に、私は、肉の私の幸せ、喜びのみをやはり、自分の中に求めていることを感じます。私の中に、これだけ頑として動かない固い、固い塊があることを知りませんでした。

心を見てください、心を見てください。そう伝えてくれることが、どれだけのものなのか、私は、今、少しだけ感じさせていただきました。

異語。

***さん、どうぞ、田池留吉に心に向けて瞑想をなさってください。あなたの過去よりの転生は、自分の中で作ってきた他力の世界の中で、あなたは、その中で、じっと、じっと、その他力の神々を守ってきた、そんな転生でございました。

田池留吉を思うということは、本当の自分を思うということです。本当の自分を、どうぞ、あなたの中で思ってみてください。本当の自分と出会う旅を、これから、あなたも、まだまだ続けていかなければなりません。その過程は厳しいです。頑なに閉ざしてきた心、他力の神々に忠誠を尽くしてきたあなたの心を溶かしていく、その過程は厳しいです。しかし、そういうことを経なければ、あなた自身が、決して、本当の幸せも、喜びも分からない、今、あなたに伝えるメッセージでございます。

三三八、***さん、どの程度反省が進んでいますか。お母さんの反省を、どの程度されましたか。瞑想はどうでしょうか。どうぞ、自分の思いを語ってみてください。

はい、母親の反省、瞑想、私の中で扱っていないことを感じます。やろうという思いはありません。ああでも、その思いは、欲を基本としています。

未知なる世界を知りたい。心の中に温もりと安らぎを広げていきたい。そう、私の中には、欲がいつぱいあります。今、改めて自分の中を振り返ると、欲の思いがたくさん、たくさんあります。誠実に自分自身を振り返る。なぜ私が生まれてきたのか、それを、誠実に振り返ってみる。そういう真摯な思いに欠けていたと思います。

欲とこの学びは合わない。そうですね。今、そのことをほんの少し感じさせていただきました。***さん、どうぞ、ゆっくりでいいんです。あなたの日常を通して、あなたの思いを見ていってください。思いを見る。すなわち、あなたの出すエネルギーを感じていってください。何をしたか、何を言ったか、その底に流れるエネルギーを、自分の中で感じていってください。こんなことぐらいと思うことでも、すごいエネルギーがその源にあります。そのエネルギーを自分の中で感じていくこと、確認していくこと、それは、母親の反省、瞑想を通して、徐々に進んでいくことです。

自分の出すエネルギーを感じる。これは、とても大切なことです。いいとか悪いとかではないんです。自分の出すエネルギーを感じる。そのことに集中して、これから日常生活を送っていくてください。何をやらなければならないとか、何をしてはいけないとか、そうではありません。ただあなたがすること、あなたが話すこと、どんな時でも、あなたは、自分のエネルギーを確認すること、それをしてみてください。

異語。

***さん、この学びは頭ではありません。あなたの心で感じていく学びです。どうぞ、もう一度、本を読み直し、じっくりと自分と向き合ってみてください。

幸せを望む思い、幸せを求める心、その幸せとは何か、喜びとは何か、安らぎとは何か。今のあなたは言うまでもなく、肉、形を基盤としている、そのところからの喜び、幸せ、安らぎだと思えます。その喜び、幸せ、安らぎ、それが、あなたの中にしっかりと根ざしていることを、これからの生活の中で感じてみてください。

三三九、 ＊＊＊＊＊さん、どうぞ、あなたの思いを語ってみてください。

はい、私は、＊＊＊＊＊と言います。私自身も長い間、学びをさせていただいてきました。私なりに、時間の許す限り、自分を振り返ろうとしてきましたが、心の中は、まだまだとても堅い、堅いです。

岩盤を心に抱えているような感じがします。これを私自身が溶かしていかなければならないですね。

心を語ることが難しいと、何人かの方がおっしゃっていましたが、本当にその通りです。堅い、堅い殻の中に閉じ込めてきた心を解き放ち、心を語ることは、本当に難しいと思います。

異語。

＊＊＊＊＊さん、あなたを生んでくださったお母さんを思ってください。お母さんのお腹にいた頃、そしてお母さんから生まれたばかりのあなた、その頃のあなたに、思いを戻してみてください。

異語。

はい、お母さん、お母さん、お母さん……。お母さんが私を受け入れてくれました。優しい、優しい思いが伝わってきます。この優しさで、私は、私を見つめていけばいいんですね。頭ではなかった。自分を自分で解き放つのは、頭ではなかった。母の思いを心に感じて、優しいお母さんだけを見つめながら、その思いで自分を振り返る。ああだから、瞑想をしてください、瞑想でしか分からないと、田池留吉が語ってくれていたんですね。申し訳ございません。

異語。

***さん、どうぞ、異語を聞きながら、そして、瞑想をしながら、ふうっと、力を抜いたとき、あなたの口から自然と異語が出てくると思います。何でもいいんです。あなたも、音を口から出してみてください。

奥さんとともに異語で語り合っていますか。そうすることによって、またあなた自身の心の中に何か変化が表れてくると思います。どうぞ、日本語ではない、異語を通して、奥さんと互いに心を通じ合わせていってください。意識の世界は通じています。異語で語り合うことに

よって、それが、それぞれの心の中で、はっきりと感じられるのではないのでしょうか。

三三〇、***さん、あなたの思いを語ってみてください。

私は、***でございます。お母さん、お母さん、こんな苦しい心を抱えて生まれてきた私でした。すさまじいエネルギーの塊の私を、今、感じています。自分は間違っていない、自分は正しいと、私は生きてきました。でも、その間違っていない、正しいというエネルギーは、すごいものでございました。私は、自分を全く知らずにきました。お母さん、あなたに生んでもらったから、その間違った自分、何にも知らない自分を少し感じさせていたでいます。破壊のエネルギーを蓄え続けてきた私の中に、ほんの少しだけ、安らぎも感じさせていたできました。

でも、私の中は、まだまだ、まだまだでございます。他力の反省も、まだまだしつかりとやっています。他力の神々に縋ってきた思いを、私は見ることなしに、今までやってきたと思っています。すごいエネルギーです。今、自分を語りながら、そのエネルギーを感じています。

何も知らなかったとはいえ、すごいエネルギーを、この宇宙空間に垂れ流してきたんだなあと、私は、今、感じています。

自分の中の宇宙を汚してしまった、そんな感じがします。お母さん、申し訳ございません。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

ああ、田池留吉、田池留吉。真っ向からお前にぶつけてきたエネルギーを感じる。自分に対してすさまじいエネルギーをぶつけてきた、そのことを感じます。申し訳ございません。申し訳ございません。しっかりと心を見てまいります。本当の自分に歯向かってきたエネルギーは、すごいものでございました。自分を自分で地獄に突き落とす、まさしくその通りでございます。このエネルギーこそ、私自身が、しっかりと見ていかなければならない、今、そのように思います。

三三二、 ＊＊＊＊＊さん、心を語ってみてください。

私は、 ＊＊＊＊＊です。己の偉い心を、しっかりと見てきませんでした。高く、高く、そびえ立っている自分を感じます。今、心を語りなさいと言われたとき、私は、どれだけ自分をそびえ立たせてきたことか、そのエネルギーのすさまじさを感じています。

ああ、私は己が偉い、偉かった。とても、とても己が偉く感じます。ああ、私のエネルギーを自分自身で感じ、そのように思います。

＊＊＊＊＊さん、田池留吉のことについて語ってみてください。田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、ああ、私は、田池留吉を見下してきました。田池先生と、私は、慕ってきたつもりです。でも、私の慕ってきたものは、肉の田池留吉。ああ、偶像崇拜そのものでございました。心の中、意識の中は、田池留吉を蹴散らしている。己を高く、高くそびえ立たせた私は、

田池留吉の意識を蹴散らしてきた。今、そのように感じます。

肉の田池留吉ではありませんでした。ああそのことが分からなかった。田池留吉を語りなさいと言われたとき、私は、何も語ることはできません。

田池留吉の意識を踏みにじつてきた、今、その意識の、私が作ってきた意識の世界を感じさせていただいています。お母さん、お母さんに思いを向けたとき、ああ、私は、今、素直に自分を語れることを感じます。お母さん、私は、間違つてまいりました。

三三三、***さん、あなたの思いを語ってみてください。

私は、***です。苦しい、苦しい、私の中の苦しみは、山ほどあります。そして、寂しさも募ります。寂しいです。寂しい私があります。私は、寂しい、寂しい、寂しい、寂しい、私の心が語ってきます。

苦しさも悲しさも寂しさも、自分の中でしっかりと抱いてやれなかった自分を感じます。ああ、私は、そんな自分を今、感じています。

苦しかったね、寂しかったね、辛かったね、悲しかったね、どうしようもなかったね。そ

んな私を抱きしめてやれなかった私を、今、感じさせていただいています。己が高いということとは、こういうことでした。

この学びをしてきたつもりです。でも、私は頭でございました。自分の奥深くに進んでいかなかった。この心の中の苦しさも悲しさもやるせなさも、みんな、みんな、私は蓋をしてきました。

どうしても、どうしても、肉の私が前面に出てきます。肉の私を幸せにしろ。肉の私を満たせ。肉の私の思いを通せ。そんな思いに従って、私は、ずっと、存在してきました。

***さん、田池留吉を思ってみてください。

異語。

田池留吉、申し訳ございません。私の心の中を、今、語らせていただいています。肉の私は、哑然としています。こんな、こんな私がいることを、つゆとも知らずに、私は、この学びをやってきた、ああ、私は、この学びをやってきた。素晴らしい私がいる。私を認める。田池留吉、私を認める。そのような思いで、ずっと、ずっとやってきました。

ああ、認められるはずはありませんでした。いいえ、認められる、認められないもなかった。私自身が、私を知らなかった。そういうことでした。田池留吉、申し訳ございません。お母さん、残り少ない私の肉の時間、精一杯、お母さんに心を向けてまいります。今、私を語らせていただいて、ありがとうございます。ただただお母さんに向けて、田池留吉に向けて、この時間をごしてまいります。

三三三、***さん、心を聞かせてください。

私は、***です。アマテラスに、私も心を使ってきました。アマテラスのほうに心に向けてきました。アマテラスこそ素晴らしい神、アマテラスこそ素晴らしい救世主、そのように、私はずっと、ずっと、思いを向けてきました。アマテラスに仕えてきた者でございます。

アマテラスこそすべて、アマテラスこそすべて、そのように私の中が言ってきます。ああ、私は、今、その自分の思いを語らせていただいたとき、アマテラスを自分の中で包んでいってください。アマテラスに真実を伝えていってください。アマテラスは、救いを求めています。アマテラスは、本当の安らぎを求めています。アマテラスは、あなたの中から救い、助けを求

めています。その思いも、同時に感じてきました。

異語。

***さん、あなたは、この学びに繋がりました。田池留吉のセミナーに集えました。そうですね、アマテラス、あなたの中につけてきたアマテラスを、救っていただく。それは、あなた自身を救うことです。そのために、あなたは、今世、肉を持ち、今世の学びに繋がったのです。そのようにして、あなたの心を見ていただく。

アマテラスに使ってきた心、とても、とても大きく、深いものがあります。どうぞ、その思いを、あなたの中で、じっくりと見ていってください。

***さん、田池留吉、お母さんに思いを向けてみてください。

異語。

お母さん、お母さん、お母さん、お母さん……。私は、お母さんの心に戻りたい。安らぎの

お母さんのもとへ帰りたいたい。私は、何も要りません。ただただあなたの、温かい懐へ戻りたい。戻って、私を見つめてみたい。今、そのように感じさせていただいています。

心をしつかりと向けてまいります。ありがとうございます。

三三四、***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、***です。自分の心を語ることを、私はしてきませんでした。しっかりと自分を守ってきました。己偉い自分を守ってきました。形を整えてきました。私は、形を整えてきました。人間とはこうあるべきもの、男とはこうあるべきもの、そして、夫とはこうあるべきもの、そのように、私は、自分の心を縛ってきました。そして、周りにもそれを強要してきました。私の流すエネルギーは、とても厳しいものでございました。

この学びに繋がって、私は、自分の出すエネルギーの厳しさ、自分を縛ってきたその思いを、少しだけ感じさせていたいただきました。妻にも、もちろん、この思いを流してきました。私は、とても己が偉いです。そびえ立っています。この学びに繋がって、自分の間違いに、ようやく気づきかけているとところでございます。

しかし、私の過去からの心は、そんな私の反省、瞑想では、とても、とても崩してはいけません。高く、高くそびえ立ってきた私の帝国を崩していくには、私には、まだまだ時間が必要でございます。ああしかし、お母さん、間違ってきたことを感じさせていただき、今世、私は、そのことを感じさせていただき、今、とても、嬉しいです。

***さん、心を田池留吉に向けてみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉。間違つて生きてまいりました。心を解放することを、私は、教えていただきました。心をごんじがらめに縛ってきた私でございます。何を以ってして私は正しいのか、何を以ってして私は偉いのか。そのところが、私にはよく分かりませんでした。

己を高くそびえ立たせてきました。どんなに転生を重ねても、この心の中を解放することをしてこなかった私にとって、田池留吉、あなたとの出会いは、私には、とても、とても、大きな出来事でございます。これからも、私も転生を重ねてまいります。心を解放するために、私は、厳しい転生を重ねてまいります。

田池留吉、お母さん、もう少し、私の心を見させてください。今世、もう少し、見させてください。

三三五、****さん、あなたの心を語ってみてください。

はい、私は、****と言います。私は、何も分かりません。突然、私は、病にみまわれました。と私は、思ってきました。突然、突然でございます。しかし、私の思いが現象化したものでございまして。私の中には、そう、私の中には大きな、大きな、黒い、黒い塊が、ズンと心の中に残っています。

我を見よ、我に従え、我は正しき者、我こそ素晴らしい、その思いを抱えて、私は、ずっと転生をしてきた者でございます。今世も、私は、その思いに従って、肉の生活をしてまいりました。夫に従い…、ああ、夫に従ってきました。ですが、心は違いました。私の意識の世界は、違いました。

私こそ素晴らしい、私は素晴らしい、私はそんな思いで、ずっと生活をしてまいりました。そして、きちんとした生活をして、皆さんから、一応の評価を得て、今の生活の基礎を作りあ

げてきました。

こんな私が、ひとつの病を得ることによって、その私がなんともはや、みすぼらしい姿となりました。自分の思い通りに頭も動かない、身体も動かない。自分の思いがどこにあるのか分からない。自分の心がどこにあるのか分からない。私は、真つ暗な、真つ暗な、ひとり寂しい世界で、じつと、うずくまっている私自身を感じてまいりました。これが私なのか。そんなはずはない。私は素晴らしい。私こそ素晴らしい。私はみんなを従えて当然だ。私は、みんなに崇められて当然だ。そんな転生を繰り返してきた私の中に、こんな私があつてはならない。それを打ち消す私がありました。とても苦しかったです。今、私は、自分の心を語り、私の心がどこを向いているのか。また、私は、あの暗い、暗い、途轍もなく暗い、寂しい、寂しい中に戻っていかなければならないのか。そんな思いで、いっぱいでございます。

***さん、お母さんに使ってきた心を、どうぞ、あなたも見ていってください。しっかりと見ていってください。どのような方法でもいいんです。あなたを生んでくださったお母さんに、どのような思いを向けてきたのか。それがすべてでございます。

あなたは、お母さんを踏みつけにしてきました。踏みにつけてきました。形は、そうではないかもしれませんが。ああでも、心、意識の世界はそうなんです。あなたはお母さんを殺して

きたと言っても言い過ぎではありません。それを、あなたがあなたの心の中で、ああそうだ、私は、そんなエネルギーを、ずっと、ずっと流し続けてきた。そのことに気付くまで、あなたは心を見ていつてください。

あなたの旅は永遠です。そのあなた自身に気付くために、あなたは、肉体をまた自分に持たせるでしょう。

厳しい転生が待っています。素晴らしい自分を崩していつてください。素晴らしい自分などこにもいません。あなたは、自分を地獄に突き落としてきた真つ黒な意識です。その真つ黒な意識を、本来のあなたに戻す軌道に、どうぞ、一日も早く、あなた自身を乗せていつてください。そのような転生が、あなたも自分で用意していると思います。このメッセージが、あなたの心でしっかりと感じられるまで、どうぞ、あなたは、あなたを見ていつてください。

厳しいことかもしれません。ですが、私は意識、私は本来の自分に帰る旅を続けている意識、そのことを、しっかりと感じられるようになるまで、あなたの中に、本当の喜びも、本当の幸せも訪れることはありません。

三三六、***さん、心を語ってみてください。

私は***でございます。他力信仰のときに使ってきた思いを、充分に見てきたとは言い難いです。心の中に他力のエネルギーが渦巻いていることを、私も承知しています。とても難しいです。他力の心を掘り下げて見ていくことは、自分自身とても難しいです。私は、そのエネルギーを、まだまだ自分の中でしっかりと握っています。

心を見てきました。自分なりに心を見て、反省をして、瞑想をして、そういう過程を経してきました。精一杯やってきたと思います。でも、基盤を変えることは難しい、今、そのように感じます。簡単なようで難しいです。本当に難しい。

心に感じるものがあります。心に響いてくるものがあります。だから、私は、私の中で、…という思いがあったことは確かです。それによって、己を表してきた過去がありました。それをすべてご破算にして…、という私の思いが、まだまだ自分の中で確実になっていないです。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉、申し訳ございません。学びに繋がらせていただいたこと、ああその前に、お母さんに生んでいただいたこと、それが喜びでございました。

数々の苦しいことがございました。今世だけを見てみましても、私には、とても厳しい転生でございました。だからこそ、私自身の心をしっかりと見ていかなければならなかったのです。必死の思いで生まれてきた私を感じています。田池留吉に、心向けるとき、必死の思いで生まれてきた私を感じます。

この思いを、自分の中でしっかりと、しっかりと、確認してまいります。この思いがあったからこそ、今、私がここにあることを感じ、今、とても嬉しいです。間違ってきた私、たくさんの間違いを繰り返してきた私、お母さん、田池留吉、申し訳ございません。ありがとうございます。心を見てまいります。

三三七、 ****さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、 ****です。寂しい私を感じています。心の中の寂しさ、心の中の空洞を感じています。これは私自身が、自分の心を見て、自分が自分の寂しさを抱きしめてやる以外にない、

私は、そのことも感じています。

ああでも、私は、その前に、この寂しさを何とかしてください、この寂しさをどうにかしてください、そのように自分の中で祈ってきた私がたくさんいることを、今、感じています。

祈り続けてきました。願い続けてきました。幸せを求めてきました。幸せになりたかった。心の底からの幸せを私は求めてきました。

私の幸せとは、どういうことだったのだろうか、今、自分を語るときに、本当に儂い幸せと喜びを求めてきたなあ、今、そう思います。

***さん、あなたも沖縄で生活をされています。沖縄の生活風習、生活慣習、それが、あなたの中に染み付いています。沖縄の地を愛していると同時に、沖縄を憎んでいるあなたの思いも感じます。

どうぞ、そこに、今世転生をしてきたあなたを、もっと、もっと、しっかりと見ていってください。

あなたには、たくさんの過去世があります。その地で転生を繰り返してきたたくさんの過去世があります。言うなれば、沖縄の神々を祭ってきたあなたの過去世が、あなたに訴えているんです。苦しい、苦しい…、助けてください…、私達に真実を…、私達に安らぎを…、私達

に本当の喜びと幸せを…。寂しい、寂しいと訴えてきているその意識の奥底には真実を求める思いが、しっかりとあります。どうぞ、心を見ていってください。

お母さんに思いを向け、ゼロ歳のあなたを思い出し、その思いで、あなたの中にある皆さんのあなた自身を、優しく、優しく、包んでいってあげてください。

****さん、田池留吉を心で呼んでみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉。心を向けるなどという思いと、心を、もっと、向けてくださいという思い、私は、そのふたつの中にあります。

私にとって、大切な今世の時間です。今、そう思います。そのように感じます。大切な、大切なこの時間、田池留吉を呼ぶことを、素直に、真剣にやってみります。お母さん、お母さん…、ありがとうございます。

三三八、***さん、心を語ってみてください。

***でございます。他力の心を抱えて、私は、今世肉体を持たせていただきました。お母さんに生んでいただきました。そして、田池留吉に出会い、この学びに出会い、今ここに存在しています。

自分をどうすることもできなかったエネルギーを、しっかりと心に感じることを、私は、まだしていません。どうすることもできなかったんです。他力のエネルギーを抱えて生まれてきたのに、私は、私の中をしっかりと見てこなかったから、今も苦しい中にあります。でも、今心を語らせていただいている私があります。

苦しい中に、よかったね、よかったね、あなたもしっかりと自分を見つめていきなさいよ、お母さんの思いが伝わってきます。これが、私のこの学びに集ってきた結果なのでしょうか。

お母さんの思いを心に感じます。間違ってきました。思いを向ければ向けるほど間違ってきた自分を感じます。すさまじいエネルギーの中に生き続けてきた私を、どうすることもできなかった私を、今、感じさせていただけます。ありがとうございます。お母さん、ありがとうございます。

***さん、田池留吉を心から呼んでみてください。

田池留吉、異語…。田池留吉、田池留吉、心の中に田池留吉を呼びたい思いがあります。そして、アルバートを呼びたい思いがあります。心を田池留吉、アルバートに向けていこう、向けていってください、そんな私の声を聞きます。信じられないけれど、これが私、本来の私なんです。

苦しい、苦しい、冷たい、冷たい中に生きてきた私ではありませんでした。心を向けてまいります。田池留吉、アルバート、二五〇年後を楽しみに、私は、私の時間を過ごしてまいります。苦しいけれども、私は、二五〇年後の私を、今、感じさせていただいています。

三三九、***さん、心が苦しいですか。あなたは、今、心をどこに向けていますか。

私は、***です。心の中に大きな、大きな暗闇を感じます。どんどんどんどん、その中に落ちていく自分を感じます。私は、自分で暗闇のほうに行っていることを感じます。心の暗闇…、私の中に大きな、大きな暗闇が広がっている。私は、それがとても恐怖です。私の中

には、たくさんの私がいる。どれもこれも苦しい、苦しいって叫んでいる。私は、その中で、ただ、怖くて、怖くて、じつとうずくまっているだけです。

何も聞きたくない。何も私に聞かせないでください。私は、怖い、怖い。そう、そんな私を、今、感じています。

***さん、暗い、暗い、真っ暗な中に、あなたは、ひとりうずくまっていると答えられました。もう少し、しっかりと自分を見つめてみてください。どうぞ、お母さんのほうに心を向けてみてください。

異語。

お母さん、お母さん…、ああ、私は、どうなっていくのでしょうか。心が崩れていくのが分かります。お母さん、お母さん…、助けてください。苦しい、苦しい…。私は、私の中に何が蠢いているのを感じます。とても、とても、恐怖だけです。お母さんと呼んでみてくださいと言われても、私は、ただただ恐怖でいっぱいでございます。

ああ私が、ああ私が…。何か、何か、私に訴えている。私に訴えている何かを感じます。

異語。

***さん、どうぞ、怖がらないでください。あなた自身を怖がらないでください。あなたは、自分だと思っていないから、恐怖が先に立つのです。そして、苦しい、苦しいと、その恐怖から逃げようとして、余計に苦しくなっていくのです。そうではありません。苦しい、苦しいって言っているのはあなたです。そのことが分かりますか。だから、お母さんのほうに思いを向けて、お母さんに使ってきた思いを、少しずつでもいいですから、自分の中で見つめていってください。あなたの中でお母さんの温もりを求める思いが、たくさんあります。苦しい、辛い、悲しい…、そんなあなたがたくさんいます。すべて、あなたです。どうぞ、あなたがあなたを受け入れていく、そのためには、あなたが素直になって。お母さんのほうに心を向けて、ただただ、何も思わずに、あなたを生んでくださったお母さんを思ってください。

三四〇、***さん、あなたの心を聞かせてください。

私は、****です。田池留吉、申し訳ございません。この学びをしつかりとやっていきます。心の中の苦しさを、しつかりと見つめてまいります。金、金に狂ってきた私、寂しさを金に誤魔化してきました。私の中に、寂しい心が、たくさん、たくさんありました。お金を持ってば、この寂しさは和らいでいくのではないか、お金に紛らわせてきた私がございました。

そうではなかった。自分の中の寂しさは、自分自身で見つめて、そして、自分の中で包んでやらなければ、私自身、どうすることもできなかった。今、そのことを感じさせていていただきます。

しつかりとお母さんの反省をしてみたいです。私もパワーを求めてきた。その他力の思いもしつかりと、見つめてまいります。申し訳ございません。田池留吉、お母さん、心を語らせていただきまして、ありがとうございます。周りの人達を通して、私の心を見ていきます。周りの人達の苦しさを、私も感じさせていたいています。苦しい、苦しいって訴えてきているけれど、それは、私自身の心でございました。そのことを、今、ようやく、自分の中で、少しずつ感じています。心を見てまいります。

****さん、どうぞ、田池留吉にあなたの心に向けてみてください。

異語。

田池留吉、心から田池留吉を思える今を、嬉しく思います。苦しい私をこの中に帰してまいります。心の中の私に、しっかりと意識を向けていきます。お母さん、私を生んでくださってありがとうございます。その思いを、しっかりと心に抱えながら、お母さんに思いを向けてまいります。

ああ、私は、ああ、私は幸せでございました。この思い、私が、今感じているこの思いを、そう、私の言葉を通して、自分に関わる周りの人達に伝えていこうと、今、思います。何気ない言葉、何気ない仕草で、私は、私の心で感じたものを伝えていきたい。そこから、私は、自分の周りの人達と学びを進めていきたい。今、そのように思っています。ありがとうございます。

三四一、****さん、どうぞ、心を語ってみてください。

私は、****でございます。怖い、怖い、怖い、怖くて怖くて仕方がなかった。私の心は、小さく、小さく縮こまってきました。だから、他力の神々に縋ってきました。どうぞ、私の心を救ってください。私の思いを聞いてください。そんな私を、他力の神々に、私を助けて

ほしかった。私は、怖くて、怖くて、仕方がなかった。***は恐かったです。怖かったです。怖くて、怖くて仕方がなかった。

どうぞ、かじかんできたあなたの心に、温もりを広げていってください、今、心を語らせていただき、そのように感じます。ああ、ああ、お母さん、お母さん、苦しかったよ、お母さん。心を広げていきたい。もっと、もっと、お母さんの温もりを心に広げていきたい。私は、ああ、お母さんの許へ帰りたい。お母さん、怖くて、怖くて、ああ、私は、消えていきそうな自分を、しっかりとしっかりと見つめてまいります。

どうせなら消してくださいと、消し去ってしまいたいと、自分を自分でそのように思ってきました。そんな私が、とても冷たくて申し訳ない。自分に申し訳なく感じます。

***さん、怖がらなくていいんです。あなたは、あなたの心をしっかりと見ていってください。誰も、あなたを殺しにはきません。あなたが、あなたの心を見てくださいと、あなた自身が伝えているだけです。

ちみもつりよう 魍魎魍魎の世界はありません。あなたがあなたの中で作ってきた暗黒の世界です。お母さんが、あなたに手を広げて待っていてくれます。どうぞ、本当のあなたを思い出してみてください。

****さん、お母さんを心から思ってください。どうぞ、本当のあなたを感じていつて
ください。田池留吉に心を向けていつてください。田池留吉に、心をともしに向けてみましょう。

異語。

田池留吉、田池留吉。ああ、どこにいても、田池留吉。ああ、温もりを思えばよかったんですね。
私の中にも温もりがあったということを、伝えてくれてる今を感じます。田池留吉、お母さ
ん、心を語ります。もつと、もつと、自分を見つめて、心を広げてまいります。心を広げてま
いります。田池留吉、お母さんが待つてくれていることを信じて、私は、私の中に温もりを伝
えてまいります。****という肉体をいただき、この肉体がある間に、しつかりと、心を向
けてまいります。私は、そのように、今、感じさせていただいています。ありがとうございます。

三四二、****さん、どうぞ、あなたの心を語ってみてください。

私は、****です。ぶつ殺してやる。ああ、苦しい、苦しい、苦しい。こんな心の私を、ああ、

どのように語れというんだ。お母さん、苦しい、私は苦しい。

お母さん、苦しい、苦しい、苦しい。私は、そうやって自分のエネルギーを周りの人達にぶつけてきました。自分の中で、自分をしっかりと見つめて、包んでいくことを、私はしてきませんでした。

ただ、ただ、苦しい…、ああ、自分の中が狂っていくことがたまたまなく苦しくて、恐怖でいっぱいでした。こんな私を、今、心に抱えながら、ああ、それでも、私は、心を語らせていただいています。

お母さん、お母さんを憎んできました。お母さんを、ああ、ないがしろにしてきました。お母さんを、ぶつ殺してやりたいと、どれだけ思ってきたことか。周りの人達を、ああ、私は、亡き者にしてまいりました。

ああ、自分を自分で殺してきました。こんなすごいエネルギーを、私は抱えて生まれてきたんですね。語れば語るほど、私が、今、ここにあることが不思議なくらいです。なぜ、私を生んだ。なぜ、こんな苦しい私を生んだ。そんな思いで、お母さんに詰め寄りました。ああ、しかし、私は、生まれてきました。私に、肉体をくれた母に対して、今、微かながら、申し訳ないという思いを感じさせていたいています。

肉体をくださいと、私があなたにお願いしたのですね。なぜ生まれてきたのか…、こんな

苦しい私なら……という思いを、ずっと抱えてきたけれど、肉体をもらわなければ、私は、さらに地獄の奥底に沈んでいく、そんな意識だった。今、そのことを感じさせていたと思います。声も絶え絶えに肉体をいただいた私、今、ようやく自分の中に、その思いが響いてまいります。

***さん、どうぞ心を落ち着けて、丹田呼吸をして、お母さんを思い、田池留吉を思ってください。

異語。

田池留吉、田池留吉。ああ、不思議なほど心が静まっています。心は荒れ狂っていました。意識の世界は、荒れ狂っていた私なのに、田池留吉、お母さんに心を向けたとき、私の中は静かに、静かになっています。微かに優しい思いを感じます。この心を信じていってください、優しいあなたがいるんですよ、あなたの中にその優しさ、温もり、安らぎを思い出していってください、そのような思いが、微かに響いてきます。

しっかりと瞑想をしていきます。心が荒れ狂うとき、丹田呼吸をして、なるべく、丹田呼吸をして、しっかりと、心に向けてまいります。ありがとうございます。いい体験をさせてい

いただきました。心の中に温もりを感じます。ああ、私はこの温もりを知っていることを、感じています。お母さん…、だから、お母さんの反省、お母さんを思う瞑想、そうなんです。

いつまでも、いつまでも、この中にいたい。今、そのように感じさせていただいています。ありがとうございます。嬉しいです。ありがとうございます。

三四三、***さん、あなたの思いを語ってみてください。

はい、***です。心の中の忙しさ…。忙しい、忙しい、忙しいと私は息つく暇もなく、私は忙しいと、自分の中をさ迷っていることは確かです。

心の中の忙しさ…。忙しい、忙しい、忙しい、私の中は、忙しいって言っています。どうしてこんなに忙しいのか、私は分かりません。

今、心を静かに、お母さんに向けてみてください、あなたの肉體細胞を思ってみてください、どうでしょうかという思いが、響いてきます。

異語。

はい、肉体細胞の思いに心を向けることなく、私は、この肉を使つてまいりました。申し訳ございません。肉体細胞はそのためにあるものではありませんでした。この私自身を見つめるために、私の肉体細胞が動いていたことを、今、感じさせていただいています。

どうぞ、心をしっかりと向けていってくださいと、私の中に伝わってきます。心をしっかりと見つめていくために、あなたは、肉を持つてきたのですよ、そのように、心の中に響いてまいります。

異語。

*****さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

*****の意識でございます。田池留吉を憎んできました。田池留吉を憎んできました。あいつを殺せ、殺せ、殺せ。田池留吉の言うことなど、ああ、誰が、誰が聞くものか。そのように

私の中にこだまする思いがあります。ああ、この思いをしつかりと見つめてきませんでした。それが私の過去からの思いでございました。他力の神々に心を向けてきた私の過去からの思いでございました。だから、田池留吉に心を向けることに歯向かってきました。抵抗する私がございました。忙しい、忙しいと私は田池留吉に心を向けることなく、肉のほうに思いを向けてきました。

心の中の自分に歯向かってきた今のすさまじい思いを感じています。ああ、田池留吉、心からあなたに、あなたに歯向かってきた今を感じます。

ああ、私は、***の意識…、すごいエネルギーを抱えてまいりました。私は、田池留吉を殺しにやっつてまいりました。

三四、***さん、あなたの心を語ってみてください。

***です。心を閉ざしてきた私は、心の中を暴かれるのがとても怖いのです。何を語ればいいのか分かりません。母にも父にも言えない思いがたくさん、たくさん詰まっています。心を語りたくない。心を閉ざして私は、ずっと、ずっと存在してきたからです。

今、あなたの心を語ってみてくださいと、お母さんの思いが伝わってきます。ああ、お母さん、お母さん、申し訳ございません。苦しい、苦しいから、あなたを邪険にしてみました。寂しいから心を閉ざしてきた。寂しい思いを、しっかりと心に抱えたまま、私は存在してきました。

この思いを分かってくれ、分かってくれと、あなたにぶつけてきたけれど、あなたは何も分かってくれなかった。だから、あなたを恨んできました。恨んで憎んできた私の思いは、どうすることもできませんでした。母を恨んできました。母を憎んできた。苦しいのは私だ。ああ、私の心が苦しい。お前の苦しみなど、私の苦しみに比べれば、なんていうこともない。私の苦しみを、お前、もつと分かってくれ。もつと私に心を向けてくれ。私は寂しいじゃないか。私は寂しい。私は苦しい。私の思いを分かってくれ。そんな思いを、あなたにぶつけてきました。

***さん、どうぞ、しっかりと心を向けて、あなたの心を書き出してみてください。本を読まれましたか。心を見てみてください。あなたの苦しみは、あなたでしかどうすることもできません。あなたの心の中の苦しみをどんな方法でもいいんです、あなたの外に出していただく。ただし、肉のお母さんやお父さんや、周りの人達にあなたの思いをぶつけるということではありません。

あなたの中で、あなたの思いを見ていくのです。その方法は、そうですね、ノートに書き

出してみるとか、パソコンに打ち込むとか、異語で吐き出すとか、そういうことです。

あなたのエネルギーを肉の人達にぶつけても、返ってくるものは闇でございます。周りの人達も、肉は闇だからです。ただ、あなたのお父さんやお母さんは、この学びをなさっています。それぞれに心を見つめながら、あなたに思いを向けていると思います。けれども、所詮、肉は闇でございます。その闇をあなた自身が、自分の中に受け止めて、そして、しっかりと受け止めながら、ともに帰ろうと、温もりに帰ろうとするには、あなた自身、まだまだ勉強する時間が足りないと思います。

だから、今は、しっかりとあなた自身の心を見ていってください。あなたの中であなたの心を見ていってください。そして、少し自分の中で、心の広がりというか、心のゆとりを感じたとき、感情を伴わずに、こんな思いが出てきたってお父さんやお母さんと、語ってください。もちろん、異語でいいんです。そうやって、どうぞ、ご家族で、この学びを進めていってください。

三四五、***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、***です。私は、何も分かっていないことを感じています。心に感じるものがありました。心に響くものがありました。ああでも、私は、何も分かっていないと思います。今、それを感じています。特に、この二月の勉強会に参加させていただき、私自身、自分の学びに対する姿勢が甘かったということを、感じさせていただきました。本当にすごい場集えている自分だなあ、今、そのように思います。

私が今世、体験してきたことを、私は、自分の中で本当に喜びとして、受け止めてきただろうか、そう思うとき、いやそうではありませんでした。私の中の苦しみ、それは、私自身が作ってきた世界だった。それなのに、私は、その中で、苦しい、苦しいと、もがき喚いてきただけのことだったんだ、今、そのように思います。

過去からの私すべてが、今世の私に集約していた、そんな大切な時間と空間を、私は、本当に、軽く、軽く受け止めてきたように思います。

今回、勉強会に参加させていただき、今、自分の心を語らせていただき、もっと、自分の中で、真芯にこの学びをとらえ、自分自身をとらえ、しっかりと今世の時間を、使つていこうと思つています。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉、申し訳ございません。お母さんの反省をやっていきます。もっと、もっと、自分の心を真剣に見つめてまいります。

私も、はい、転生を重ねて、二五〇年後に自分の中を爆発させていきたいと思えます。心で感じられる世界、素晴らしい世界を、私は、自分で黒い、黒い真つ黒な世界に塗り替えてしまったことを、今、心に感じます。

他力の神々を、私の中で、しっかりと握っている私です。今、田池留吉を思うとき、その真つ黒な、真つ黒な塊の自分を感じ、今、本当に心から、しっかりとやらなければならない、これが、私が今世、肉体をいただいた本当の意味だったんだ、今、少しだけ感じさせていただきました。ありがとうございました。

三四六、***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、****です。己偉い私は、肝心なところを崩していません。まだまだ自分の中に、しつかり芯が、固い、固い芯があるのを感じます。心を田池留吉に向けることを、私は恐れています。自分が崩れていくことがとても怖いです。立派な己が崩れていくこと、私が崩れていくことが、とても怖いです。頭隠して尻隠さずだと、ずっと言われてきました。その通りだと思えます。どれだけ自分を取り繕っても、私の中は真つ黒でございます。苦しさが心の中から上がってきます。

夫を従えてきました。自分が一番偉かったです。小さな、小さな中で、我一番、己を見よ、我に従え、そんな思いをずっと抱えて存在してきました。これが、私が過去からずっと引きずってきた心の世界でございます。どうしても幸せになりたかった。だけど、小さな中に自分を閉じ込めて、幸せになれるはずがなかった。今、そのことを感じさせていただいています。

****さん、どうぞ、心を田池留吉に向けてみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉、ああ、私が崩れていくのが怖い、怖い、怖い。そんな私があります。

しっかりと私を握っている心の世界があります。

夫が、子供が、そして周りの人達がその固い殻を破りなさい、あなたを崩していきなさい、そのように伝えてくれているのを感じます。

心を見てまいります。お母さん、お母さんを殺してきた。私もお母さんを殺してきた。お母さんなんて…という思いを、私はずっと抱えてきました。私が一番でした。私が一番でございました。お母さんなしで、私も生きていけると思ってきました。お母さんなしで、私もずっと、ずっと幸せになつてやる、喜びを感じてやる、そんな思いで、ずっと生きてきたことを、今、感じさせていただいています。

三四七、 ****さん、他力のエネルギーを見てこられましたでしょうか。

私は、****です。はい、心の中に、他力のエネルギーが渦巻いていることを感じてきました。感じてきたけれど、私もその他力のエネルギーを自分の中から、自由に解き放つことをまだしておりません。しっかりとその他力の神々を握っています。心を本当の私、お母さんの温もりに向けることを、拒否している私があります。

肉は、心を向きたい、向けていかなければならない、向けていこう、そのように思っているとありますが、自分の中は、まだまだでございませう。どうしても、幸せになりたかった。どうしても幸せになりたかった。その思いが強いです。幸せとは何だろうか、今、自分の心を語っているときに、ふとそのように思いました。やるせない思いを感じます。辛い思いを感じます。もう、私も、Uターンしなければならぬ。そう、今、そのように感じています。

****さん、どうぞ、心を田池留吉に向けてみてください。田池留吉を心から呼べますか。

異語。

ああ、ああ、苦しいです、田池留吉を呼ぶとき、とても苦しい思いを感じます。私は、自分と田池留吉の間に、しっかりと入れてきた人がいます。何度も言われました。私が握ったのです。握る心が私にあったからです。申し訳ございません。その反省を自分の中でしてまいります。

お母さん、お母さん…、お母さん、私を生んでくれてありがとう、私も心からそのように自分に言つてやりたいです。私には、私の時間があると思います。焦らずに真摯な思いで自分

を見つめてまいります。

三四八、****さん、どうぞ、心を語ってみてください。

****です。他力に沈んできた自分の心を語ることを、私もしてきました。他力の神々に仕えてきたことを、私の中でしっかりと見ておりません。他力の神々を、私は崇拜しています。私は、本当の自分を感じていない、今、そのことを感じます。私の中にも、本当の自分が生きていることが、全然信じられませんでした。それよりも、他力の中にあつたほうが、自分を生かしてくれているような気がしてなりません。温もりを…、安らぎを…、幸せを…、そのように他力の神々に縋ってきた私の心癖、私の中に、まだしっかりとございます。

****さん、それでは、あなたが仕えてきた他力の神々に、あなた自身、心を向けてみてください。

異語。

私はお前を牛耳ってきた意識だ。私に心を向けよ。他力の私に心を向けよ。お前を幸せにしてやる。お前に本当の安らぎを伝えてやる。温もりもお前に伝えてやる。私を見放すな。私に心を向けよ。私を裏切るな。お前、私を裏切るな。私を裏切ればどうなるか分かるか。お前は、もつと、もつと、すごい、すごい転生を重ねていくぞ。私に心を向けないなら、私を裏切つて私を見捨てると、お前の転生は、ますます厳しい転生になっていくぞ。どうだ、お前、私を見捨てる気なのか。お前、私を見捨てる気なのか。私を、私を、もつと、もつと、崇めよ。私を、もつと奉れ。お前のその思いが弱いから、お前の中で、私の力が活かし切れないのだ。どうだ、もつと、もつと、心を向けてみよ。私の本当のパワーをお前にくれてやる。お前、心を向けてみろ。

異語。

あなたの中で、ずっと、ずっと、このように語ってきたその意識の世界を、あなたは、今、感じています。どうでしょうか。脅してくるかもしれません。強がっているかもしれません。でも、その心の底の底を感じてみてください。とても、とても、寂しい、暗い、本当に暗い、

寂しいものを感じませんか。彼らもまた、本当の温もりの世界へ帰りたいのです。だから、あなたに、縋っているんです。あなたが縋っていると思っていないでしょうか。違うんです。あなたが心を向けてきたその他力の神々があなたに縋っているんです。縋りながら、素直になれないから、裏腹なことを言っただけあなたを脅したり、強がったり、そうやってあなたに、圧力をかけているのです。あなたは、どうぞ、その他力の神々の思いを、しっかりと受け止めていってください。お母さんの思いで受け止めていってください。そうすれば、心を開いて、素直にもっと、素直になつて語ってくると思います。実は、それがあなた自身です。この意識の仕組みを、あなたの中で、しっかりと感じていってください。あなたであつてあなたでない、あなたでなくてあなたである、そう、一体化しているあなた自身を、自分の中で見つめていってください。お母さんに心を向けていってください。

***さん、田池留吉を呼んでみましょうか。

異語。

田池留吉、田池留吉、私が唯一、心を向けていくのは、田池留吉という方向でございました。

本来の私自身でございました。お母さんの反省をしてみたいです。お母さんが私を受け入れてくれた心を思い出し、私もゼロ歳の心に自分を戻してまいります。その心で、私自身を見てまいります。申し訳ございません。私は、私を包んでまいります。

三四九、***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、***です。己が一番、一番、一番、一番、私は、この心を見てきませんでした。自分の心の苦しさを、周りの人達にぶつけてきました。なぜ心が苦しいのか、自分自身何を間違ってきたのか。己の偉い私は、とても、とても高いところから、周りを見下ろしてきました。だから、自分の心の苦しさも、自分の心の間違いも、自分自身の存在の間違いというものも、私は、心に感じておりません。

本当に私自身、どれだけそびえ立っているか、己一番の自分を誇っているか、そういうところを、まだまだ全く自覚していないのと同じです。

己の偉いところから、自分の心を見てみよう、この学びを…という思いになっても、高くそびえ立った牙城を崩していくことは、並大抵ではありません。とても甘いと思います。自分

を語らせていただき、私は、これを果たして、私のこれからに繋いでいけるかどうか、甚だ不透明でございます。今、私は、そんな状態です。私の現実を、もつとしっかりと把握しなければならぬ、今、自分を語って、そのように感じていきます。

****さんのお母さんの****さん、あなたも心を語ってみてください。

私は、****でございます。そう、私も、確かに学びに出会ってから、長く時間が経過しています。ああでも、私の中は、あの当時そのままでございます。田池留吉…、私の中で、全く何も分かっていないことを感じます。ただ、この学びを肉で触れた…、この学びを肉で知った…、そこから、私は、何ひとつ自分を進化させていない今、そう感じさせていただいています。

****さん、そして、****さん、今世この学びに繋がったあなた方親子でございます。どうぞ、互いに、なぜ、自分達が今世、肉を持ち、そして、田池留吉を知り、この学びに繋がったのか、その原点をそれぞれにもつと、真剣に真摯な思いで見つめていってください。

この学びは実践が第一でございます。どんなに心が敏感でも、田池留吉の指し示す方向に

心を向けない限り、全く何も変らないことを知っていただく。他力の中に沈んできた自分達の意識の世界を、もっと真剣に見つめていただく。己偉い心では、自分の間違いに心で気付くということは、不可能でございます。

おふたりとも、セミナー参加はどうでしょうか。特に、最近数年の間、セミナー会場に、足を運ばれましたでしょうか。学びは、ホームページで紹介している通り、進化しています。ですが、あなた方の意識の世界は、旧態依然のままです。私は、そのようにお伝えしたいと思います。

三五〇、***さん、***さん、どうでしょうか。あなた方が自発的にこの学びをされようとしているのでしょうか。私が、あなた方に思いを向けたとき、そうではないということを感じます。だから、今は、あえて、あなた方おふたりの思いというか、心を語ることは差し控えたいと思います。それよりも、まだあなた方おふたりは、年齢的に若いです。それぞれの肉の時間の中で、勉強なり、仕事なりの肉のあなたがすべきことがあると思います。どうぞ、そのことを通して、しっかりと肉の人生を歩いてみてください。そして、それぞれ自発的にこの学びをやってみよう、お母さんに使ってきた心を見てみよう、そのようにふっと

思えたとき、どうぞ、肉のことをしながら、その思いに素直になつて実践していつてください。肉のあなたがするべき仕事を、今はきちんとして、それからでもこの学びをされるのは遅くないと思います。

必ず、その時間の中で、自分の間違いに気付く出来事が起こってきます。この学びをやってみよう、自分の心からその思いが突き上がってきたとき、どうぞ、しっかりと本を読んで、心を見ていつてください。

今は、この程度に、あなた方にメッセージを送らせていたただきたいと思えます。私があるあなた方の意識をここで語つたところで、あまりあなた方にとって参考にならないと、私は思うからです。

三五二、***さん、心を語つてみてください。

私は、***です。心の中の苦しみも悲しみも寂しさも、何もかもみんな、ほうり出したい私があります。

私は、自分の中を語る事ができない。もう自分をどうにかしてくれ。自分であつて自分

でない、そんな私を感じます。

これが他力の心なのでしょうか。他力の神々、私が神と信じてきたそのブラックのエネルギーの中に、私自身があるということなのでしょう。私は、よく分かりません。ただ苦しいのは分かります。寂しいのも分かります。どうしようもない自分も感じます。なぜ、私が、今ここに肉体を持っているのか、今の生活に特別不満があるわけではありません。

ですが、何かしら、心の底の底が、微かにざわめいているのを感じます。ざわめきが私の中で、これから大きくなっていくことだろうと思います。転生を重ねることによって、私の中のざわめきが大きく、大きくなって、私が私をしっかりと見つめなければならぬときがやってくるだろうと思います。私には、まだその時間がかかるのだろうと、そんな気がしてなりません。

***さん、あなたも今世、田池留吉という肉を知りました。この学びのことについても、肉を通して知ったと思います。どうぞ、そのことをあなた自身、自分を見つめるひとつのきっかけとしてってください。

心の中に、あなたもすっかりと神の世界を持っています。いわゆる間違った宗教の世界です。その真つ黒な、真つ黒な世界を自分自身で、崩していかなければなりません。田池留吉は、それをただただ待っていると思います。それは、もちろん、田池留吉という肉…というのではあ

りません。あなたの中の真実のあなた、それがあなたに伝えてくる、そのことをもう少しあなた自身が、自覚なさる時間がこれから必要だと思えます。

あなたの意識ではありませんか、参考にしてください 第4巻

2010年2月20日 第1版第1刷発行

編集 / 発行 U T A会

印刷 / 製本 モリモト印刷株式会社

落丁本・乱丁本はお取り替えいたします。

© 2010 Printed in Japan